大正二年十月二十日發行

婦人衛生雜誌

第二百八十七號

明治二十二年十二月二十六日內務省許可（每月一回發行）

婦人衛生雜誌

第二百八十七號目次

稟告

○本會の十一月例會は休會致事と相成候間左樣御承知被下度候

○十一月十六日麴町區農商務大臣官邸に於て本會秋季懇親會を擧行致すべき豫定に候へども未だ確定し難き事情も有之候につき右決定次第追て御通知申上べく候間此段御了承被下度候

大正二年十月

私立大日本婦人衛生會

講演

妊娠、分娩、産褥の攝生法

醫學博士　樋口繁次

唯今幹事からお話がございました如く、今日は妊娠、分娩、産褥と云ふ事に就いて其攝生法のお話を申上げて見やうと存じます。

それで妊娠、分娩、産褥と云ふやうな事は、婦人として生を享けたる者は必ず出合はなければならぬ運命を有つて居るのでございます、それでありますから私の話をお聴き下さいまするお方は既に阿母樣にお成上げの方々もおありでせうが、又大勢のお方は是から唯今中島さんのお話がございましたやうに、後に立派なお母樣にお成りにならなければならぬ運命を有つてお居でのお方でありますから、若し私の申上ぐることが、一部分なりとも皆さんの頭腦に印象を與へることが出來たならば私は非常な仕合せであります。

それで物の觀方はいろ〲ありますが、極く冷やかに宇宙の現象を觀察して見まするさ、どんな事になりませうか、觀方がいろ〲ありますから、從つて解釋の仕方もいろ〲あります、併し一面から考へて見まするさ、此宇宙間に生きとし生ける者、皆自分と同じ種族を後の世に遺さむが爲めに生ける者と言うても差支が無からうと思ひますが、是は勿論一方の觀方であります、お互が庭に或は野邊に美しく咲いて居る花を見て美くしいと思ひ、彼の香はしき薫がすると思ます。併し花自身は美しい爲め香しい爲に咲て居るのでございませうか。自分はさうと思うて居るのでありませうか、何事も結果を見なけれ

ば分らぬものでありますが、同じやうに花に於て其結果を見ますると其美しい香しい花が咲き香ふと云ふ事は詰り實を稔ると云ふことであります、實を稔ると云ふことは何んでございませふ、卽ち自分と同じ種を絶やさない爲めに、種を後世に遺さうと云ふことであります、萬物の靈長と頗る高く留まつて居る人間の仕事も、說明を致しましたならばそれはいろ〳〵でございませうけれども、一面から觀察致しましたならば、矢張り子供を拵えて後の世に遺すと云ふ事と其子供の爲にすると云ふ事の外には無いので、それ故に此意味からして子供の出來るまでは阿母樣ではないのであります、又母たる價値は無く、從つて人の妻たる役目の幾分を缺いて居るのであります、それは確かであります、山上憶良朝臣の歌はれた「しろかねもこかねもたまもなにせむにまされるたからこにしかめやも」は人間の至情でありまして幾千年を經ても變りなきものであります。

そこでさう云ふやうな譯でございまするからして、必ず自分と同じ者を造つて後の世に遺さなければならぬと云ふ義務を有つて居ります、從つて自分と同じ種を作ると云ふことは、是は決して病氣ではないのであります。八ケましい言葉で申せば生理的の機能であります、お互が食事をして食物が胃や腸に行つて消化されて、お互に今日活動する材料となり、其餘の不用の物は外に排泄さるゝのと少しも變りはないのでございます、併し食事を致しまするのや或は空氣を呼吸致しまするのと同じであるとは申しながら病氣になる範圍と極めて密接致して居りまして平らたく申しますと垣一重でありまして、少しの蹉きがございますると直ぐ病氣になりますし、又非常に感じ易くなつて居ります、それ故に少しの事で病氣にもなります、其處が攝生の必要な所であります

それで御承知の御方も澤山おありでせうが此妊娠と申すことは婦人の胎内に子供が懷胎つて、それからして產れるまでの間を申すので、さうして婦人の胎内に子供が胚胎つて、それからして十ケ月

經ちまするとお腹が非常に痛む、例へば食べ過ぎをして下痢を致します時のやうな工合に、お腹が痛みましてさうして其子供が產れ出でまして、續いて其胎兒を育てゝ居りますところの物、所謂後產と申して居ります、其物が產れて參ります、其時が卽ち分娩でありまして、此時から此妊娠、分娩の爲めにいろ〳〵の變化が體に起つて參ります、其起つて參りました變化が復の通りに…妊娠を致さなかつた時のやうに癒りまする迄の間を產褥と申すので、此三つの時代は婦人一代に於きまして最も大切な時で、最も危險な時代であります、死亡統計表を調べて見ましても生後滿一歲の小兒の死亡が女子に較べて男子の方が多數でございます、それからして八歲位迄は同じやうで、それから上になりまするど段々女子の死亡數が多くなつて居ります、さうして四十二歲位になりまして復女子の死亡數が少くなります、言ひ換えて申しましたならば、男子は壯年より初老に至る迄の間、活動力、抵抗力が強くありまして中中死なゝい者で、女子と雖も亦同じ體を授けられてあるのでありまするから同樣に丈夫でなくてはならぬ筈でありますが、此間に妊娠、分娩、產褥と云ふ特別な役目がございまする爲めに、其役目から病氣を起して死亡が多くなつて居ります、又幸に命を取留めましても此爲めにいろ〳〵の病氣が惹起されて都合好く働くことも出來ず、又前のやうに圓滿やかなる家庭を造ることが出來ないと云ふやうな不幸な境遇に陷る方も少くないのであります、是が攝生の必要ある譯であります。

偖て妊娠、分娩、產褥は病氣でないと、斯う前提して參りますからして、病人の取扱にして藥一服要するものではありません、併しながら病氣とは極めて密接なる關係を有つて居るのであるから、注意しなければならぬと申す次第であります、そこです、そこでいろ〳〵の條件も生み出されるのでありますで斯う云ふ事は已に多く通俗の雜誌に記るされて居りますし、又通俗の本も澤山出來て居りますから既

に其本をお讀みになつたお方も澤山おありでせうが又産婆、看護婦などは斯う云ふ事は專門でございまするから、其方面に向つて殊に注意して研究されてあるのでありませうから、私が今此處で詳しく申上げることはないのでありますが、斯う云ふ事は話す人が變ると、申す事も少しは變つて居るかも知れませぬから、それで先づ時間を潰すやうな譯であります。

で先づ妊娠した婦人が私共にいろ／＼質問の矢を向けます、其質問の種類は極めて範圍が廣く、いろいろでございまするけれども、先づ凡そ纏めて見ましたならば、何んな時に何んな著物を著るとか、何んな食物を食べたならば差支ないものでせうかと云ふやうな事が質問の眼目であります、それでありますからして從つてそんなやうな眼目に就いてお話を申上げて見たいと思ひまする、それで體を動かすことでございまするが、皆さんが學校にお登りになる途中に髮もしどろに亂れて、筒袖の著物を著て、煉瓦を積んだ車の後押しをして行く妻女さんが大きなお腹をして居るのを御覧になりませう、又脊中に地玉子なぞを容れた籠を脊負つてさうして大きい腹をして居る婦人にお出會になつたこともございませう、彼樣な事をして居る人達は通常其働作の爲めに妊娠が妨げらるゝと云ふことはないのである、それでございますから一口に申しますと、其體に爲し得る所の生活の狀態を續けると云ふことが主眼である、それ故に車力の妻女さんのやうな人はそれで無事に妊娠を經過致しますが、之を立派な家庭の奥様―阿母樣に持つて參りまして當篏めると云ふ譯には參りませぬ、一般に申せば、刺戟を受け易い體でございまするからして、成るべく靜かにして居る方が宜しいと斯う申上げたい、併しながら靜かにして居ると申しましてもぢつとして居ると云ふことは惡るい、少くとも自分の家事に服する位の事は爲さらなければいけません又成るべく郊外に散歩致しまして新鮮なる空氣を呼吸すると云ふことも大切であります、學

間の方から云ふ靜かにして居らなければならぬと申しますのは、胎兒が母の胎內に宿つて二ケ月、三ケ月迄位の時は一番母の體と胎兒の連絡が惡るい時でありますから此時に餘り烈しい運動を致したり或は餘り長い旅を致したりすることは危險であります、此時代を過ぎますと又胎兒と母親の體との聯絡が密接になる、それで比較的強い運動を致しましたり或は旅を致しましても妊娠が中絶すると云ふやうな事は通常無いのでございます、併し又月が重なりまして自然に產れる時期に近寄りますると‥‥九月十月の初になりますと、又僅かな事でお腹が痛み又病氣を起しまして、分娩を早やめるやうな事がある、それ故に此時代は又旅を致しましたり強く働いたりすることは愼まなければならぬのであります。

其次は食物であります、食物は今日の方にはそんなに八ケましい事を申す人は多くはありますまいと存じますが、未だ嚴格な舊習を墨守して居る家庭に於ては妊娠をして居る婦人の食物にいろ／＼注意をなさる、そんな物は食べてはならぬぞと言はれるが併し今日の立場から申しますると妊娠した婦人が食べて惡るいと云ふ物は一つもないのであります、其人の嗜好に投ずる物でありさへすれば何を召上つてもそれが障ると云ふことは通常ございませぬ、唯非常に多量に刺戟性の物を召上るのを忌むので、それは多量と云ふことが惡るいのであつて、若し其人の嗜好である物を少量ならば差支はないが、併し世の中にはいろ／＼の迷信があるのであります、子供の出來る食物もあり、又子供が途中で消えて仕舞ふ食物もあるさうであります、殊に屢々耳に致しまする事は其食物に由つて畸形の子供が出來ると云ふやうな事があると云ふて居ります、然しさう云ふ事は全く無いのでありまして、斯う云ふ事は新らしく私が申上げるまでもなく、既に此處に持つて參りました斯う云ふ古い本にも明に記されてございます、此本は賀川子玄先生の產論と云ふ本であります、此本は私の眞に好きな書物で、日本の產科學に於て最も貴い

本の一つでございます。

話が少し岐路に入りまするが御維新になりまして、西洋の科學的のいろ〳〵の基礎の上に築き上げられました醫學は駸々として他の科學と共に輸入せられまして且つ非常の進歩を致し醫學のみは西洋諸國に比べて少も遜色なしと申す程度に達して居ります然し此事なき以前の日本に於て西洋の文明の産科の書籍に比べて殆んど遜色なしと申して宜敷い書物がありますそれが此賀川子玄先生の著された産論であります、我が國の産科學は賀川子玄先生あるに出つて大なる誇をなして居る譯であります、私は此賀川子玄先生の百年前に書れた其明論が非常に氣に入つて居りますから今讀上げて見ます「妊娠禁レ食二川鱗一亦是近來始有二此陋習一。竊繹二其意一蓋惡二流産一而忌レ之也。夫傷産自由四母氣不足與三物傷二其胎一而有レ之豈川鱗之所二能爲一乎。蓋余壯及二今年一六十有七歲。其間日治二妊娠一過レ有二此翟一。必強食レ之爲二一世一。除二之謬惑一而未三嘗遇二所レ害也。大抵一切禁忌未三嘗非二庸惑之流一也。

實に明論であります此百年以前に我賀川先生は先覺されて此言を爲して居る、此先生の本に據りまして何んでも其嗜好の物を量を超えざるやうに取りましたならば少しも差支はないのでございます。

次に衣服の事でお話して見まするど著物は寒暑に應じて其時〳〵に適するやうにすると云ふことは、妊娠致しません人でも同じ事であります、唯一つ注意を深くすることは腹帶であります、是も初めには斯う云ふ目的で起つたのであります、それは母の胎内にある孩兒に烈しき寒暑の變動に逢せざるやうに常に一定の溫度を保つて居る爲めに纏いた物で、第二の目的は度々妊娠を繰返せば腹壁が非常に弛るんで來る、彼樣な腹に有る胎兒は位置がいろ〳〵變ることがある、是は詰り腹壁が惡るいのであります、それ故にそれを防ぐ爲めに腹帶を稍々堅くしたのであります、それが何う云ふ間違ひであるか段々腹帶を堅く締めないと胎兒が育ち過ぎて分娩が困難になると

云ふやうな迷信が間に入りまして、さうして血液の循環をも妨げると云ふ程にも呼吸するにも苦しい程にまで堅く腹帶を著けたのであります、是は極く惡るい事であります。前に申上げたやうに目的が二つにあるのでありますから非常に堅く緊う必要はありませぬ、相當の堅さに卷きまして腹部が暖かく保たれて居るやうに致しましたならばそれで目的は十分に達して居ります、度々妊娠を致しました婦人は腹壁が弛緩せぬと云ふ程度に緊ますれば十分で、呼吸するに苦しいと云ふ程に卷きましては却つて害が有るのであります。

それから其次は精神の狀態、精神の修養とでも申しませうが妊娠中は殊に僅かな事にでも感じ又刺戟され易くなつて居るのであるから、成るべく精神を確かに持ち穩に持たなければならぬ、八ケましく申しますると胎教‥‥母が道德に外れざるやうに、道德に適つた行を致して居る、さう云ふやうな正しき考を有つて居りました時には、正しき考の子供が生れて參ります、即ち「切目正しからざれば食はず」と云ふ風に端正に自分の身を處して居りまするを秀麗な子供が産れて參ると云ふやうなことも申しまするが、それは必ずしも謂はれ無き事ではございませぬ、併し私の今申しまするのはそればかりではなく一般に分娩と云ふものに非常に恐を懷く者が多いのである、それでありますから其時には怖を懷かざるやうに自分で修養なさる、此分娩と云ふものは生理的のはたらきであるそれ故に必ず婦人の出會はなければならぬ務めである、其出合ふた時に確な覺悟を持つて屹度安産が出來ると云ふ考を自分で確かり有つて居るのが一番大切であります。

分娩に就いて種々の心配を持ちますると云ふことは却て妨になる、若し自分一人で其安心を取ることが出來ぬならば、或は自分の信賴して居る産婆なり又醫者なり其他何れの方法に由つても少しも差支は無いと考へて居ります、何んでも自分の臍を固め自分の信念を確乎にして置くことが大切であります、

それからして愈々分娩に遭逢致しますと分娩と云ふ……母の胎内に居る胎兒が產出と云ふ事でありますが是又病氣ではないので自然の力が胎兒を外に運び出します、其自然の力から烈しき痛が伴ひまするのが普通で、其烈しき痛に耐ゆる程度の努力をする、それは肉體の方から申しますと體力で精神の方から申しますと忍耐力で常に孱弱い體で居つては痛に耐ゆることも出來ず又痛を起すことも出來ませぬ、又痛が無くては產れない必ず痛があるのでございます體が非常に弱ければ其痛すらも起すことが出來ない折角痛を起しても其人の意志が薄弱であつて濫りに怖を懷いたりするやうなことでは其痛に耐ゆることが出來ないで、日本の婦人は其處に至つては忍耐が强くあります、これは二千年來分娩の時に痛いなぞと申すと、それは婦人の恥であるぞと段々申付けられて居りまするからで私がお世話申した婦人の中には一人も痛いなぞと言はれた方はありません、何うぞ是からもさう云ふやうに希望致して居ります、併しながら西洋の婦人には度々あるので、私なぞが暫く向ふに參りましてさう云ふやうな稽古を致しました時に、西洋の婦人は分娩の時に痛い〳〵と申て泣き叫び終には眠藥を嗅がせてさうして產ませる事もあります、英吉利なぞでも殆んど眠藥を嗅がせまして分娩を終はらせると云ふことが當前であると云ふ位になつて居るが、併しそれは惡るいことで皆日本の婦人のやうにそんな眠藥なぞはなしに此役目がすつかり終はるべき筈であるのであります、それには卽ち忍耐力と體力とが必要でありますから平素から此覺悟を以て體を養つて置いて重大なる難關を通り脫けなければなりません。

そこで分娩時の注意と申しますることは何う云ふ事かと申せば、是はいろ〳〵ありますけれども其中最も大切な條件が一つある、それは何かと申しますと消毒法の事であります、皆さんの御承知の通り窒扶斯であるとか、虎列剌であるとか赤痢であるとか、斯う云ふ傳染病は醫學の力で防がなければならぬの

でありましてそれが防がれるのは消毒法のお蔭であります、昔は人の腹を切る、腹を切れば必ず死ぬものに定まつて居つたが、今日では私は病人の腹を切つたこと數限りもないが其爲に死ぬであらうと考へて開腹手術を致した事は一度もございませぬ、人の腹壁を切つて腹の間の物をすつかり出しまして、さうしていろ〳〵の治療を致しまして、さうして腹壁を縫合せて終ひに致します、それで少しも何ともない、それは何の爲めかと申しまするに消毒法が嚴重に完全に行はれて居る爲なりと斯う申すことが出來るので、此消毒法を完全に行はないと、何うなるかと申しますと、それは熱が起るのであります、分娩した時に熱が出ると云ふことは消毒が完全に行はれて居らないと云ふことで、言葉を換へて言ひますれば熱を起す黴菌が外部から這入つて來たと云ふことであります、で皆さん斯うお考になつて戴きたい、產れ出でました子供を見ますると云ふと何の位大きいか普通大きい猫位の大きさは御座いませう今其猫の皮を剝て廣げたと致したならば隨分廣い面積になりますそれで胎兒の產れ出でました跡の腹の內には實際其れ程の廣い創が出來て居るのであります若し皆さんが御體の見ゆる處に是だけの創を有つて居られたならばどうでございませう、中々じッとして居られる事では御座いますまいそれは中々痛いことでございませう、さうして其處から血が出たりする事で御座いませう、胎兒が產れた痕はそれだけ大きい創になつて居ります、それだけ大きい創になつて居るのでありまするから、其創に若し黴菌が來て附著したならば大變であります、啻に熱が昇るばかりでなく、それからしていろ〳〵の病氣が惹起されて終には其人の命をも奪はれて仕舞うと云ふことがあるのです、それでは何の位熱が出るかと申しますと日本の今日の有樣から言へば中々多いやうで百人分娩を致しまするとニ十五人は熱が出ます、さうして千人中三人位は死にます、折角十ヶ月の間の苦を經過致しまして、可愛い子供を產みまして悅ぶ間もなく、

可愛い子供を置いて亡くなつて仕舞はなければならぬと云ふやうなことになるのであります。是が一番恐ろしいのであります、それで今日では此産褥熱は吾々醫者が努力して段々と防ぐやうになつたのでございます、が是が今からして七十年ばかり前きには分らなかつた其時分の事を考へて見ますると誠に情無いものであります、それで其事に思ひ及びます度毎に私はゼンメルワイス先生を追想し感謝せずには居られません、ゼンメルワイス先生は維也納の大學の産科婦人科の教授でありまして、此頃どうも分娩をする婦人に熱が出てさうして其爲めに死ぬ者が多い、又幸に一命を取留てもいろ／＼の病氣を惹き起して舊の通り活動することが出來ない誠にお氣の毒な譯である、何うかして此熱を起さないやうな工夫はあるまいかと兼々心掛けて研究を致しました時に、西暦一千八百四十二年病理學の先生が死にました事から其豫防法が發見せらるゝに至ました病理學と申しますと・・・例へば茲に病人がございまして治療をしても其病人が藥石效無くして亡くなりました其時に、吾々醫者が此人が生きて居る間に斯う云ふ病氣である、例之ば胃癌が出來て居るのであるとか或は肺に結核が出來て居るのであるとかいろ／＼の診斷を下して居る、さう云ふ人が死んだ時に、病理學の方で請り解剖と申して、其亡くなられた病人の肉親の方の許を受けて、其病人の體を解剖して初めて成程胃癌が出來て居るとか或は肺に結核が出來て居るから是はどうしても生きて居ることは出來ぬとか云ふやうな事を定める、また夫から研究をすると云ふ方の學問の先生でコレチカと申す方がありました其先生が學生と死人を解剖して居りました時に、不熟練な學生の爲に指尖を傷けられた、さうしますると頓に發熱をして段々と容態が惡くなつて來ましてとう／＼亡くなられました其創の爲めに發熱した状態が分娩の爲めに熱を起して惱める病人と誠に容態が一致して居つたので、ゼンメルワイス先生は兼兼此事に注意し研究して居られましたから、それは

乾度何か外に毒があつて其毒物が創口から入つて熱を起すのであらうと云ふ御考へで、分娩の爲には眼に見ゆる處にも多少の創は出來る又見る事の出來ない腹の内に非常の大きな創が出來て居る此創から毒が入つて斯くの如き熱を出すと云ふことは少しも疑ふべからざるものであると云ふ事をお考へになつたので、產婦を取扱ふ時には種々の藥液で手を洗ふことにしました、ところが是までの維也納大學の產科院で產婦を取扱つた時に多い時には二百三十九人の產婦の内七十五人までは熱が出て死んだそれをゼンメルワイス先生が產婦を取扱ふ時には醫者看護婦、產婆等に必ず消毒藥で手を洗ふことに致させましたところが非常に減りまして僅に百人中に一人と申す程になりました、此時代はまだコツホ先生が世の中に出ない時代でありましたから毒物であると云ふ唯漫然たる考ばかりであつたが兎に角此毒を防ぐには手を洗はして、それで先づ防ぐことが出來ました、それからコツホ先生は皆さん御承知の通り黴菌學の創立者でありますが、其研究に依て、ゼンメルワイス先生の申された毒物とは今日で申す黴菌であつて此黴菌が傷に觸れて彼樣な熱を起し命を奪ふことになるのであると云ふ事が明になりました、從て總て黴菌を打破はすにはいろ〱の消毒藥が大切であると云ふて其消毒を嚴重にすることになつて、熱を起すことが防げるやうになつて居る、それで此方法は分娩の時にも最も良い手段であるので、それ故若し分娩が始まりましたならば其局部を清潔に致しまして、消毒を致します、又分娩の介助をする醫者產婆などは手を能く消毒する、又此頃ではさらに完全にと申すので其消毒した手に護謨の手袋を箝めて仕事をするやうにまで進んで參りました、是が一番大切な事でございます、此消毒を嚴重に行せることが出來たならば先づ是以外に危險な事はありましてもそれはいろ〱ありますけれどもまあ少ないのであります。

次に產褥の事に移りますが、產褥とは妊娠中及び分

娩時にいろ〳〵の變化が起る、其變化が元の通りになるまでの間を申すのであります、此間も亦病氣ではないのでありますが、子供が生れると腹内には眼に見えざる非常に大きな傷があるのでありますから此創の癒らざる中は本當ではないのでありますから其中は大切に靜に息んで居る事が必要であります、それで分娩致しました後に非常に澤山の下り物‥‥漏出物があります、皆さんが一寸傷をすると其創口から血液や創液が滲み出る、其れと同じやうに其創面から漏出物が出て參りますから其處に相當な消毒したガーゼや綿を當てゝ置くやうな手當をする、是が第一の條件であります、第二の條件は體を靜かにして居る事で動きますると創の癒りが遲いのでありますから、お產をして先づ三日位は平かに臥んで、それから尙ほ七日位は橫に臥んで居るので、其人の健康狀態に由ていろ〳〵ございますが、田舍の人などはお產をして自分でお湯を沸して子供を取上げると云ふ程に丈夫な人もございまするけれども是等は取除けであつて斯う云ふ人の眞似をすると云ふことは宜い事ではありませぬ、先づ少くとも一週間位は息んで居らなければならぬのである、其次の一週間位は坐はつたり起きたりして居る、けれども重い物なぞを持てはならぬので、三週間になりましたならば草履のやうな輕い履物を穿きまして靜かに歩くやうにする、で次は食物でありますが此食物は初めの中は成るたけ消化し易い物を食べるやうにする、妊娠の爲めに腹部が大きくなつて居つたのが、分娩の後は弛緩して居るので、其腹が段々と元通りに癒つて參ります其時代は成るべく軟かい物を食べるやうにするのが宜しいので今まで妊娠の爲めに胃や腸などが壓し付けられて居りましたが爲に働が非常に鈍つて居る其處に急に堅い物などを食べますると働が鈍つて居るから消化する力が弱い、それ故に成べく堅い物は避けて相當に消化するやうな物を取つて日を繼るに從つて段々と食物を舊のやうに復へるので食物は何を食べても少しも差支ないのでありますが、

酒類や辛味の物は禁じた方が宜しい、能く葡萄酒などを飲んで血が殖へると心得て用ひるやうな方もありますが、彼れは葡萄酒の中に含んで居るアルコールの爲めに一時血液の循環が善くなりまして、唯暖く顔が赤くなると云ふ事だけで血の殖えると云ふ事は無いのでありますから、是は却つて良くないのであります。

最後に申上げて置きますことは、偖て自分の產んだ子供でございますからして、自分が育てなければならぬ、自分の產んだ子供を自分で育てることが出來ない程の者は恐らくあるまいと存じます、若しあつたならば私が前に申上げた如く、それは母としての價値の幾分が削がれて居る者と考へます、生れました子供を育てるには母の乳が一番宜しいのでございまして、母の乳で育てた子供の方が達者な美くしい良い心の子供が出來るやうであります、それは精神的又肉體的にも美くしい良い子供が出來る筈であります、それを山羊の子にしたり牛の子にしたりするから虛弱な少年などになるのであります、世間にはさう云ふ悲しき思をしなければならぬ間違つた文明に倣つて居るやうな人もあるやうであります、西洋の或國では婦人は自分の子供を自分の手で養ふことは面倒であるからと言ふて皆山羊の子や牛の子や甚だしいのは驢馬の子にする、斯う云ふやうに致しましたそれが一代二代と續いたので、今度は婦人の乳房が男子の乳房のやうに小さくなつて仕舞つたのであります、そこで其國の學者が憫れに思つてどうかして我子であるから母の乳で育てゝ上げたいと思つていろ／＼心配をしても體が變つて居るからして癒すことが出來ないと云ふやうな情けない境遇に陷つて居る國もあります、如何に世の中が開けても天然に伴ふ仕事には變りはないので、從つて子供を育てる途も自然でなければならない筈であります、然し人は何時病に罹るやも分らぬものでもありますからして、其時には病める母の乳を以つて子供を養ふと云ふことは出來ない、其時には或は乳母の乳或は牛

乳と云ふやうな物を用ひなければならぬ事もありますが、通常の場合に於ては先づ第一に妊娠する位の覺悟の有る人であつたならば其子供を自分の乳で養ふと云ふ程の覺悟を有つて居らなければならぬ、瑞典の婦人で私が近頃お世話して居る方でありますが、其人が產をして僅か今日で三十日程にもなりませう、私は西洋人のことでありますから乳のことに就いて何うかと思つて居つた所が、其婦人は自分の乳で育てると申して居られるので、非常に結構なことであるが併しながら誰れも何時病氣しないものではなし、又他に出て都合で歸りが遲くなることもあるでせう、其時に直ぐ牛乳を飲ませやうと申しても子供は中々飲むものではないから、今の中から其時の用心に一日に一度位は飲ませて置いた方が宜しうございませうと言ひましたら、其婦人が言はれるのに、自分は此子供の母でありますから、此子供が生まれた以上は、此子供の爲めに乳を飲ませる時間が來れば、決して其時間に於て他に出るやうなことは致しません又他に出ましても乳の時間が來れば必ず歸ります又養生して病氣にも罹らない樣に致しますからと言つて、牛乳はどうしても飲ませないと言はれたので私は却て大いに赤面を致しましたやうな次第であります、御承知の通り非常に此國は體育の盛んな國で其體育の方面には學者が注意致して居るので普通の婦人にまでさう云ふ考が吹込まれて居るのでありませう、是は其人ばかりでなく其他に瑞典の婦人をお世話した時に同じやうな話がございまして私は非常に感心致したのでありますが、どうぞ我國に於ましても或る特別な事情が無い以上は交際などは後廻しにして自分の子供は自分の乳で育てると云ふことにして欲しいのであります、それで妊娠を致しましたならば子供が產れました後に乳房を能く子供が吸へるやうに若し乳房が小さくつて子供の口に屆かないやうであつたならば氣にして此乳房を摘出して置く、又其乳首を冷水或はアルコホルのやうな物で清潔に拭つて其皮膚を丈夫にし子供が乳を飲

む時に創の出來ない樣にして置く事が大切であります若し創が出來ますると其處から黴菌が這入りまして腫れたりなどして乳を哺せることが出來ないやうな場合がありますから注意しなければならぬのであります、凡そ何んな畫が美くしいと申しましても、子供が母の乳房を含んでスヤ／＼眠つて居る所の畫ほど美しい畫がございませうか、斯う云つたやうな畫は西洋の油繪には澤山ございます、私も一二枚持つて居りますが、是だけの美しい畫は他にはあるまいと自分は思ひます、餘り長くお話を致しますること却つて御迷惑と存じまするから、此位でお仕舞ひに致して置きます、どうぞ皆さんも精神肉體共に健全に發達せられて後に健全なる母となられて、さうして健全なる立派な兒童を育上げられまして、國家の爲めに十分に御盡しにならむことを偏に希望致して居ります。

叢談

動物の毒の話

醫學士　竹中香平

吾れ／＼人間は蜂に螫され、蛇に噛まれ、又は河豚を食べて種々苦しい思をし、時には命を落とす事さへある。これは蜂や蛇、河豚などには毒があるからであると云ふ事は誰でも知つて居るがさて其毒は如何なるものかと尋ねると知らぬ人が多い。素人は勿論學者の間にさへ極めて僅かしか知られて居ないのである。

今これ等の性質、其中毒の有樣、治療法を述べて見やうと思ひ、假りに「動物の毒」と題したのである。

さて動物の毒を吾れ／＼が受ける。其受け方によりて分類すると三種類になる。

一、螫されて受ける毒
二、嚙まれて受ける毒
三、食べたがために受ける毒

螫されて受ける毒とは蜂、虻、蚊、海膽、海月「さそり」の持てる毒で、嚙まれて受ける毒とは蟻、蜘蛛、蛇、鼠などの毒、吾れ〳〵が喰べたがために受ける毒とは河豚、鯖などの魚類の毒を云のである。

〇〇〇毒の性質

〇螫されて受ける毒の性質

種々である。其中蚊、蠅、虻の持てるは酸性で、其中には主として巴豆油に似たものがある。これが毒である。巴豆油とは醫者が下劑に用ひる藥であるが少し皮膚へ著けても赤くなり且つ痛む程、ひどい毒のある藥である。これ等の動物には特に毒を分泌するためだけの分泌腺の無いところを見ると、此毒は唾腺から分泌るらしい。故にこれ等の動物では唾液即ち毒である。螫すと共に唾液が吾れ〳〵の身體の中へ唾液が入る。其唾液のために害を受るのである。

蜂の毒は酸性であると云ふ人とアルカリ性であると云ふ人とある。何にしても芫菁によく似て居る。芫菁はアルコールに溶かして醫者が發泡用に使ひ又は毛生藥と稱してこれを塗る人もある。皮膚へ附けると痛む上に火脹れの樣に膨れ上るのを以て見ても、蜂の毒がどんなに強いかは判かる。

「さそり」の毒も酸性である。海月のも同樣です。

蚤、南京蟲の毒は蚊と大差なしである。

〇嚙まれて受ける毒の性質

蟻の毒には蟻酸がある。此外種々の物が含くまれて居るが、蟻の種類によつて變つて居る。しかしウンデカンは何種の蟻にも在る。

蟻には針が無い。只上顎で嚙んだ後に其上顎の後にある毒腺の毒を注入するのである。

鼠に嚙まれると病氣になると云ふ事は西洋には餘り多く聞かぬが、東洋諸國にはある。殊に日本には隨分ある。しかし其毒の性質は未だ研究濟でない。

蛇の中には毒蛇と然らざるものとある事は云ふまで

もない。其毒蛇の毒の成分はグロブリンとアルブモーゼとが主である。これは毒を分泌する毒腺と云ふものゝ中に在るが、此毒腺は眼窩の下に在つて歯に通じて居る。此歯に管があるから、毒蛇が物を噛むと歯が毒腺を壓す事となり、そのために毒液は歯の中の管を通して噛まれた物の中へ注射する様になるのである。毒蛇は大抵は黄昏又は夜は活潑であるが日中は動作頗る緩慢である。刺戟すれば噛むが、それでなければ決して人間を噛むものではない。

○喰べたがために受ける毒の性質

牡蠣、「いかい」が汚い海水中に生活して居ると其體中に毒を生ず。これはプトマインといふ毒の部類に屬するものである。即ち「いかい」の肝臓から先年作り出された「ミチラトキシン」といふ毒が主成分である。これは「アルカリ」性である。

河豚は卵巣が殊に毒がはげしい。肝臓にも毒がある。冬は卵巣が小さくなる時期であるから、其時は比較的毒が弱い。近年我が國で「ヘパトキシン」とか「テトロドトキシン」とか云ふ薬が製し出されましたがこれは即ち河豚の毒で、醫藥として用ひる人もあります。

鯉の肝臓にもこれと似た毒があると云はれて居る。其毒はあたかも「クラーレ」（矢毒）と酷似して居る。魚類に毒のある事は古くから人間に知られて居だと見え、ホーマーの詩の中にも既に書いてあるし、下つてアレキサンダー大王の頃にも「何々川の魚は一切食す可らず」といふ様な命令が屢出されて居る。

魚類の毒を凡そ六種に分つ事が出來る。

（イ）「えらぶうなぎ」、鰕、鯛、「はちめ」などの類で、自分の身を防衛するために毒腺を持て居る。それが鰭に通じて居り以て敵手を刺す様になつて居るのである。それ故此類の魚は毒のある腺を持てる皮、内臓などを取り去れば無毒である。此毒は化學的には性質不明である。

（ロ）河豚の毒

（ハ）鰯、鰊「べら」の類、毒腺はない。又河豚などの

如く特別に卵巣が毒などゝ云ふ事は無い。此毒は魚の體中で作られるのでなく、魚の食物から來るらしい。肝臓、腸管、肉などが毒である。

(ニ)大口魚の類、貯へ方が悪るくて容易に腐ると、それがために多くのプトマインが出來るから毒になるのである。或はプトマトロピンとなりて働き、或物は「ゼプシン」の如くなりて働くのである。「アルカリ」性である。

(ホ)てふざめ、白魚、鮭の類これは其體中に病原菌が居るからである。

(ヘ)鰻の血、煮ない鰻の血は毒である。やつめ鰻の毒に似て居る。トキシアルブミンを含むからである。

然らばこれ等の毒を人間が受けたらば人體は如何なるか?。

症。狀。

(一)の毒を受けた時の症狀は

蚊、虻、蚤、南京蟲などの時は、螫された場所は少し膨れて痒く赤くなり且つ熱くなる。

蜂に螫された時は、これが尚一層ひどいのである、尤も人によりて、蜂の毒に對して強い人と、直ぐに負ける人とはあるが、凡そ症狀を次の三期に分つことが出來る、即ち

第一期　進行期。膨れ、熱、痛み、血斑が出來たと云ふ時期。

第二期　稽留期。第一期の強い症狀が其の儘で、其れより甚だしくもならず、減退もせぬと云ふ時期、此の時期は凡そ一日乃至二日。

第三期　衰退期。次第に治し行き、遂に全く治して終るので、此の間八日乃至十四日を要す。

蜂の群に襲はれて死んだ例もある、死なぬまでも虚脱の狀となりて、皮膚は冷く、冷汗が出、脈搏は小さくて早く(人事不省となることもある)、數時間こんな有様が續く。然し本人は數時間は見るからに衰へ、下痢を起す。度々刺されゝば遂には刺されても何ともなくなるものである。所謂蜂の毒に對する免疫と云ふのである。

「サソリ」に螫されると、其の有様蜂の場合より一層ひどいけれど死ぬことはめつたにない。

(二)の毒を受けたる時の症狀

毒蛇に嚙まれると、其の場所は非常に痛く、膨れ、熱くなり。其の近所まで血は死ぬ。嘔吐を催し、熱が出る、痙攣が起ることがある、嚙まれた所は次第に感覺がなくなる、時とすると數時間で死することさへある。

鼠に嚙まれると、其の時は何事もないが、一週間乃至三週間經つと、以前の既に治しては居るが前に嚙まれた處が膨れて、膿を持つて來る、それから一日置きに熱が出て四十度に達することがある。痛も增す。稀れには人事不省となり知覺も運動も判らなく出來なくなる。其の上身體に吹出物がする。こんな有様で二三ケ月乃至半歲も續く、かうなれば今迄の經驗では百人の患者の中十八人は死んで終ふ。

(三)の毒を受けた時の症狀

牡蠣「いかい」を食べた後には、若しそれが毒のある時なれば、眼球が動かなくなり、近いものが見えなくなる、のみならず、話する事も、物を嚥下することも出來なくなる。

河豚を食べた後には頭痛がし、吐き、時には血を吐く時もある、すべて運動神經が麻痺するから、感覺に變りはないが、手足は利かなくなる。それから呼吸困難に陷り、ひどいのでは死ぬ。

魚類中毒の症狀は凡てを三つに大別する事が出來る卽ち

(イ)虎列剌に似た症狀。吐瀉、下痢を盛んにやるのである。

(ロ)麻痺て來る症狀。河豚、鯉等之れに屬す。

(ハ)發疹がでゝ來る症狀、種々の肝臓を食した後ちに身體へ吹出物がするのである。少し高まれる出來物及び麻疹、猩紅熱に似た吹出物である。(イ)(ロ)に屬せざる二魚の毒は皆之れを呈す。

急性胃腸炎の症狀を起すは、魚の毒を受けて何時も必ず起るものである、斯る毒に對しては如何に

治療すべきか

（一）に對する治療法

蜂、蜘蛛、「さそり」などに螫されたらば、其の部へアンモニヤ水を塗るが最良法である、西洋では蜂飼人は常に「阿列布油」に「さそり」を浸けた壺を携へて居り、蜂などに螫されたると見れば之を塗るとよく利くと云はれて居る、して見ると我國でも、胡麻の油に百足を漬けて、其れを疵へ塗るも無益の事でないかも知れぬ。アンモニヤ水を用ひる理由は、以前は是等の毒は酸性であるからそれをアルカリー性なるアンモニヤ水を以て中和するのだと説明して居つたが、之は誤つたる考へである。毒は直接に皮下へ行つてしまい、決して皮膚の表面にはまごついて居ない。其所へアンモニヤ水を附けたとて決して毒に達するものでない。又蜂の毒は酸性でない、芫菁に酷似したアルカリ性である（但し酸性だと云ふ人もあるけれど誤解ならん）、其所へ同じアルカリ性のアンモニヤが行つたとて中和される道理がない、現今では此際アンモニヤが利くと云ふのは、中和させるためでなくして、アンモニヤが一時其所を痲痺させるから痛だの痒みを消し、同時にアンモニヤは附けた其の部を刺戟するから、其所へ血を集める。其れ故毒は早く他の所へ持ち行かるゝことゝなる、茲に於てか螫された部は痛も、膨れも消へて終ふのである。

（二）に對する療法

毒蛇に噛れた時は、直に其所を吸ひ、毒を吸ひ出すが最良法である、例令毒は胃に行くとも決して毒にはならぬものであるから心配なくするがよい。其れから傷口には昇汞水か石炭酸水か無水アルコホールで洗ふか又は出來たらば、硝酸銀棒か苛性加里で腐蝕すれば此の上なしである。又毒が急に身體に回らないために、傷の上の所を絞めくゝりて置くのは肝要である。又直ぐに二十倍の過マンガン酸加里液八乃至十二グラムを皮下に注射するがよい、或はアムモニヤ水を飲ましたり、注射したりするのも利くと

云はれて居る、大概な蛇毒は過マンガン酸加里、鹽化物に遇ふと壊はされて利かなくなつて終ふ、然し酸及び昇汞、硝酸銀等の防腐劑に對しては抵抗强きものである、鼠に噛れた場合には、直ぐに其所をパクレンの燒灼器で燒くか、又は石炭酸を其の部に注射するなどもよい。病が起つてからは對症療法の外致し方はないものである。

（三）に對する療法

いよ〳〵中毒の症狀を起してからは善い法はない、但しまだ其の魚が胃の中にあると思はれる時は、吐劑（例へば鹽酸アポモルヒネの注射）を與へて吐せ、又胃を洗ひなどするもよかるべく、又興奮劑を與ふるもよからう。中毒症狀烈しければ生理的食鹽水の注腸又は皮下注射。利尿劑等を用ひねばならぬ。

睡眠に就て

醫學士　志田義三

一日の中には晝と夜とがあります。尤も南極や北極に參りますれば夜だけの日も、晝だけの日もありませうが、日本などでは必ず二十四時間の中に晝と夜との時間が分かれる。然るに人間の生活も夜と晝とに依て異る。これも晝は寢て夜働く商賣もあるにはありますが、先づ通常晝働いて夜寢るのが普通になつて居ります。卽ち寢ると云ふのは睡眠すると云ふ意味でありますが、此の睡眠と云ふことは、別に法律で以て睡眠すべし、然らざれば罰すると定められて居るのではない、生理的自然の法律に依て活きて居る以上は眠らざるを得なくなつて眠るのであります。

扨てそれでは、何故に睡眠せざるを得なくなるかと申しますと、これには隨分六ケ敷い理窟が附纏ひまして、生理學者や心理學者が種々の說明を與へて居

ります。けれども玆には睡眠の原因だとか目的だとか云ふ哲學めいたことは止めまして、只睡眠の經過の模様を大體お話致して見やうと思ふのであります。先づ生れたばかりの小兒、卽ち初兒に就て觀察致しますと、目を醒すのは乳をのむ時だけで、其他の時間は眠て居ります。それが成長するに從つて漸次目を醒してゐる時間が長くなつて、成人になれば場合に依ては往々徹夜も致しますが、何れは眠らざるを得ない、老人は眠られないと申しますが、矢張眠らぬ譯には行きません、斯樣な譯で吾々人間は一生の三分の一は睡眠するのであります。假に六十歳まで活きるとすると二十年は睡眠の時間であります。殘四十年は起きて居る時間ですが、扠てその四十年は如何に用ひらるゝか。大抵三十年位は何とも取止めもない事に費され、後の十年位が多少人として意味のある事業に使はれるのが普通でありませうか、それは先づ大分成績の好い方の人で、多くは一生醉生夢死と云ふのが通相場なさうであります。

それでは寢ず、眠らずに働き通すのが善いかと申しますに、これは出來る筈もないが、無理に睡眠を減らして働くのは結局損になります、と云ふのは睡眠は活働力を造る爲めに是非必要なものであるから能く眠らずして能く働ける譯はない、一夜睡眠を妨げられたゞけでも翌日は非常に疲勞を覺ゆる、身體的の勞働でも、精神的の仕事でも甚しく不確實になり、誤が多く、捗取らぬことが夥しい。非常の場合には徹夜をすると云ふこともありますが、極めて有害な事であります。

一體吾々の身體の內には周期的現象と云ふやうなものがある、例へば呼吸、血液の循環、更に廣く云ふならば男女の身體に於ける一種の規則立つた作用注意力の變化と云ふやうな、一定の時をおいて循つて來る所の現象がありまするが、睡眠も矢張その一種と見做すべきものであります。

吾々が醒覺して居ります時には腦、脊髓、所謂神經系の中樞が斷えず働いて居りますので、その極く細

かい組織の中にある所の力が用ひ盡され、疲勞を起す所の物質が生じて血液の中に溜ります。さうすると、それが又腦に作用して意識の働を鈍らし、外の世界の認識、觀察の連絡を緩めまして、自然と眠くなつて來る。而して筋肉の運動も止み、温の發生も減じます。斯く總ての働が休止し或は靜になつて居る間に再び全身の新なる力が貯へられる、大體斯樣な仕掛になつて居るのであります。

睡眠が自然に始まる前には漸次疲勞の感が增し、所謂上眼瞼と下眼瞼が仲好くなり、四肢も惰るく、頸も頭を撐へる力が無くなつて參ります。口も緊が無くなつて涎が流れる、提燈も出ると云ふやうな譯でつまり全身の緊張が弛緩して來るのであります。併し疲勞は必ずしも睡眠の前兆と云ふことが出來ません、若し過度に精神を勞する、殊に夜間まで仕事を續けますと、非常に疲勞を覺ゆるが、眠らうとしても眠れない、心を勞した場合のみならず、身體も度を通越して激しく使ひますと、疲勞は甚しいが却つて心神がいやに興奮して何やら不安を覺えておち／＼眠れなくなるものであります。

睡眠を促がし、又安眠を得るには、總て可成身體內外の刺戟を少なくすると云ふことが一番大切な要件であります、即ち視ず、聽かず、嗅がず、觸れず、總て注意力を緩めることが要件であります。嘗て一眼が盲で、一方の耳が聾で、おまけに神經の痲痺があつて觸覺も嗅覺も味覺も鈍くなつてゐる憐れな一靑年があつたが、此人は健康な一眼を閉ぢ、健康の耳を塞げば直ぐ安々と眠ることが出來たと云ふは有名な事實であります。動物なども光を見せず、物音を遮りますと容易に眠るものであります。少し腦力の足りない人、懶惰な人も眠らせるには左程困難でありません。何れにしても睡眠するには、靜な室で燈を暗くし、目を閉ぢて何も考へぬやうにすることが必要であります。尚ほ身體內部の刺戟も睡眠を妨げるものでありますから、これも可成除くことが肝要である、例へば呼吸が困難であるとか、心臟の動

性が劇しいとか、胃部が苦しいとか、尿意があるとか云ふことは何れも睡眠を妨げますから、鼻の詰らぬやうに、就寢前に食べ過ぎぬやうに、膀胱を空にして休むと云ふやうな注意は必要なことであります。刺戟を除くと申しましても、單純な連續し且つ反復する所の輕い刺戟、殊に平生慣れて居る所の刺戟は注意を喚起さず、却て睡眠を催すものであります。例へば子守歌、簷の雫、筧の水、松風の聲、浪の音皆眠をさそふ媒となるものであります。偶〻山間の地に宿して清流激湍虢々として枕に響き、或は海濱に驚濤駭波の澎湃を聞ひては、なか〳〵眠り難いものでありますが、二三日間も其處に止まれば、却てこれが眠を促す作用を呈する。のみならず機械職工などは、ガチン〳〵と車輪の音をして居る間は能く眠るが、その音が絶えるとこれが刺戟となつて眠を醒ますと云ふことであります。斯樣な譯でありますから、强ち全然閑靜な室内、又は全く暗黑の室内でなくとも眠れぬことはありません、要するに習慣であります。小兒なども餘り理想的の睡眠に慣れしめますと、僅か境遇が變つても睡眠を妨げられて困ると云ふ嫌もあります。

次に睡眠の時間でありますが、これは人に依て異います。如何なる場合でも八時間以上睡眠しなければ氣分が惡いと云ふ人もありますし、又四時間乃至五時間で十分だと云ふ人も往々あります。それは各人の體質にも依り、その職業、營養、加之精神狀態も關係することでありますから、決して一概に定める譯には參りません。西洋人は夜の十二時前の睡眠は、一時間で以て十二時後の睡眠の二時間の效能があると申して居りますが、これは固より俗説に過ぎませんけれども、併し元來睡眠は、最初の一乃至二時間、所謂『ねばな』が一番深く眠ると云ふことは事實であります、盜賊の能く忍入る時刻であります。睡眠後種々の時間に起して試驗をし、その三十分間の成績を、前日の夕方に疲勞した時の三十分間の仕事と、翌朝心身爽快なる時の仕事の量とに比較して

見ました所が、三十分乃至一時間睡眠した後に一位の數を連綴して加算をするやうな容易な仕事は、就眠前よりも遙に成績が良好で、殆ど翌朝に於けると同樣の好結果を示すことがある。然し數字を暗記すると云樣な稍や努力を要する仕事になると、全くその趣が異つて睡眠時間に比例して成績が好いと云ふ實驗成績があります。是を以て觀れば、輕易な仕事は二三時も睡眠すれば再び從事することが出來るが困難な仕事には睡眠を十分にしなければ堪へぬと云ふことが分かります。

倘ほ睡眠は、疲勞して甚しく睡く、殆ど堪へぬ程になつて就眠すれば、その睡は深く、左程睡くないけれども牀に就けば睡れると云ふ場合の睡は、淺いから、甚しく睡くなつて短時間睡ると、左程睡くないのに、長時間牀に就てゐるのも效果は餘り異はない譯であります。一體睡眠は疲勞して疲れた、活動なき消極的の狀態と見るよりも、普通は、吾々が日日の奮鬪に依て幾分消耗された所の身體を睡眠に依て、その消耗を補ひ、明日の活動の準備をするのであると云ふ風に積極的に考ふべきものであります。窒扶斯の如き熱病患者は一週間も眠り續けますがその目を醒した時にも毫も身體の消耗は、補はれたものとは思はれません、これは眞正の睡眠でない證據であります。健康の眠は建設的の能力を以て居る所の大切な積極的生理作用であると考へて大に活動せんが爲に能く眠る工夫をしなければなりません。精密なる實驗に徵しましても、食物を攝食せぬと云ふ如き最も身體を衰弱せしむる事柄も、睡眠を妨げる程には腦の働を害することはないと申すことであります。一夜徹宵して後に四十八時間休息しても迚も完全に恢復することは出來ない、一晩徹夜するは吾々の精神的働作力を害すること、三日間斷食するにも勝るのであります。

故に身體並に精神の最良なる休養は、健康なる睡眠にあることを忘れてはなりません。若し吾々が適當に規則正しく身體並に精神を働かすならば自然の看

護者たる健康者なる睡眠を得る譯であります。睡眠の方法、規則等に就て種々のことを申しますが、不健全な人は別として、普通の人に向てはハッチンソンと云ふ人の言ふた所が最も適切の規則として宜しからうと思はれます。

『疲れたる時に眠れ、充分なりと感じて醒めたる時起きよ、汝の本能に從て行動せば最も安全なり』

鼻の病

小寺照二郎

鼻は小さいながら是も人間の身體の一部でございまして、殊に容貌の上には頗る重要の關係を以て居るのみならず全身の健康上にも多大の關係を以て居るものでございます、然るに普通の人はどう云ふものか餘り鼻の事を御存じがない比較的無頓著な樣に思はれます、併し案外鼻は大切なもので種々の病氣も御座いますから一通り鼻の普通の機能から病氣の事まで御話を致して見やうと存じます、一體それには鼻の解剖を大體お話致して置きませんとお解りにくい點が出て參りましやうけれ共解剖の事は特別の趣味が御座いませんと却て御迷惑になりましやうから省く事と致しまして、直樣鼻の生理的作用即ち通常の働きからお話を致します。

鼻の働は大體三通りに區別する事が出來ます、第一に之は物の臭を嗅ぐと云ふ役目を持つて居ります、それから鼻は氣道の入口になつて居りまするし其中で空氣を溫めたり濕したり空氣に混つて居る塵埃を止めると云ふ樣な働があるので御座います。

解剖を申しあげて御座いませんから兎角足袋の上から痒い處を搔く樣な感じが致しますが、只今申上げた樣な生理上大切な役目を果すためには其れ相應に鼻の構造は餘程巧妙な仕掛になつて居ります、先づ呼吸する所の空氣は何う云ふ風に通つて行くかと申しますと第一に鼻の孔から上の方に參りまして其所で一つ曲つてそれから中鼻道と云ふ部分を通つて下

の方に行いて後鼻口と云ふ部分から下方の咽頭喉頭へ行く様になつて居ります、それで有りますから其間には空氣は鼻の粘膜の非常に廣い部分に觸れるのでありまして、其粘膜には澤山血管がありますので恰も室内の空氣が「スチーム」の管で暖められる様に其所を通過する空氣が程好く暖めらるゝ事になるのであります、もし吸入する空氣の温度が低い場合には此粘膜の血管が擴がりまして其空氣に餘計に温度を與へるのであります、斯様にして鼻の中に入り込む空氣が如何なる温度であつても何時でも略ぼ攝氏の三十度に温められて居るのであります、又之れと同時に鼻の中の空氣は程好く濕氣を含んで居ります是れは鼻の中の粘膜が何時でも薄く粘液を以て覆ふはれて居りますので空氣が其所を通過する時に其水蒸氣を取るからであります、それでは粘膜が乾いて仕舞ひそうなものでありますが健康な粘膜に左様な事のないのは矢張り蒸發するほどは絶えず分泌されるからであります、鼻の内部は外から見て考へられるよりは案外に廣いものでありまして其壁は非常に出たり這入つたりして居りますから是れを覆ふて居る粘膜の面積は中々廣いものであります、それで此うねつた粘膜面を通つて行く所の空氣は澤山の塵埃を含んで居り其中には黴菌か顯微鏡でなければ見えない微菌なども皆此粘膜に附著して仕舞ふのであります、それで空氣が鼻から咽喉の方へ參ります時分には混合物は大部分除かれまして猶ほ咽頭にうつる所で強く曲りますので一層清潔なものになるのであります、而して此粘液に引止められた塵埃は粘膜にある所の纖毛の運動によりて鼻の入り口の方へ追ひ出される仕掛けになつて居ります、猶又健康な鼻の粘液は有害な少さな生物を撲滅する作用がある様で御座います。

鼻は呼吸する處の空氣を今申しました様に清潔にし温かにし濕氣を含ませて氣道の深い部分に害を及ぼさぬ様に準備を致しますが猶其上に氣道を保護する働が御座います、即ち何ぞ悪い臭のするものが空

氣の中に含まれて居りまするど呼吸が自然に止まる樣になり、化學的或は機械的に刺戟する所の物質が呼吸する空氣の中に含んで居りまするど鼻の粘膜にくすぐつたい感じが起つて所謂クサメが出るのは何方にも御承知の事で御座います。

更に鼻及び鼻咽腔は歌つたり談したりします時に大切な共鳴腔となつて居りまして吾々の發音機關は丁度オルガンの樣な仕掛けになつて居ります、即ち肺は風櫃にあたり氣管ど喉頭腔は吹口に聲帶は風琴の舌に、口、咽頭及鼻腔は吹管に相當して居ります、此吹管の形ど廣さは音の響に著しく影響するものでありまして吾々が話を致します際にmどかnどかngとか云ふ樣な鼻音になりますど口腔ど鼻咽腔どの結びつきが廣く開いて氣流が自由に鼻の中へ侵入する事が出來る樣にならなければなりません是は殊に佛蘭西語の樣な鼻に懸る母音の場合に必要な事であります、若し此所の結合があまり廣く開き過ぎる例へば生來口蓋が二つに破れて居るとかヂフテリー後に口蓋が麻痺するとか云ふ樣な場合には鼻聲になつて仕舞ひます。

然るに氣流が鼻の中の何處かの部分で妨げられますど言語の響が又變つて參りますそれは主として只今申した音が妨げられるのでありますが其他の音殊に母音が妨げられます、鼻感冒の場合又は左樣でなくとも鼻を撮んで話をする時に一種固有の響がすると略ぼ同樣の理屈であります、即ち鼻聲だとか、あの人は鼻で話すとか云ふのがこれであります、然し決して鼻で話する譯ではありません、又鼻咽腔に障碍ある場合には更に發音が變つて參ります、即ち腫瘍殊に屢〻ある所の咽頭扁桃腺が大きくなつて居る樣な場合には音波の深部に這入るのを妨げらるゝのみならず共鳴を起す所の鼻咽腔が無くなつて仕舞ひます、これが爲に鼻音が變化を蒙るのみならず著しく聲の響が乏しくなつて參ります之を醫學の方では死語と申して居ります。

聲の響の變化する事について鼻の病氣の一原因を申

し述べましたが猶ほ鼻の病氣には鼻呼吸の障碍、鼻粘膜の分泌の變化、嗅覺障碍、衂血、頭痛、氣分の障碍と云ふ樣な種々の症狀が起りそれが又體の種々の部分に故障を及ぼして參ります、併し是等の症狀は決して何れの病氣にも悉く備つて居る譯ではなく其程度にも種々差のあるのは勿論の事であります

(以下次號)

オハグロに就て

矢田部齒科醫院長　矢田部藤吉

△おはぐろは神代に始まる

日本の婦人は昔からの習慣上、結婚をすると齒を黑く染めたものであります。俗に『おはぐろを附ける』と云つて居りますが、これは隨分古くからある事で、看聽草といふ書物に、

『出雲國御前社へ、天照太神、素盞嗚尊を奉祀す。宮司は素盞嗚尊の御子、天葺根命の苗裔にして、代々檢校の位と號し來れり。今の檢校門位は尊常と云ふ。葺根命より今日に至る迄、五倍子鐵漿を以て齒を染む。古來天照太神へ、天子將軍の獻じ賜ふ器中に、齒黑器品々ありと、社家上官眞野左衞門兼雄の話なり。』

と書いてある所を見ると、遠く神代から始まつた事と思はれます。女ばかりではありませぬ、男でも附けたもので古書にも色々な事が書いてあります。

『日本の黑齒は古へ唯婦人のみに行はれしが、今は王朝官人相通じてその齒を黑くす。(蓋簪錄)』

『男子の齒を染むるは、鳥羽天皇の頃より始る由。(和事始異稱日本傳)』

『一の谷の合戰に、三位通盛薩摩守忠度等、源兵の爲めに追擊せられし時、我は東兵なりと僞りたれども、齒を染めたるが故に、平氏の一族なる事隱すに由なし(源平盛衰記)』

野蠻人粧飾の遺風

現に明治維新前迄は、依然として公卿堂上の人々に此習慣を殘してあつた事は、世人も知る所でありますが、男子の涅齒は言はゞ官人が位階を表す爲めとも云ふべきもので、婦人の涅齒は、一度人に嫁した時、復た二夫に見えぬ所の表號で、東洋の風俗としてさしもあるべき事ではありますが、併しこれとて

も野蠻人粧飾の遺風で、文身と殆ど同じやうなものであります。されば明治の初めに男子の涅齒は廢されまして、婦人のも段々と少くなりましたが、これは誠に喜ぶべき事であります。何故廢した方がよいかは、次の項をお讀みになれば成程と御合點が參るだらうと存じます。

おはぐろの研究

彼のおはぐろと云ふ物は、鐵液と單寧質とから合成された黑色料で、化學上單寧酸鐵と云ふ、水に溶けない物質であります、鑛酸類には溶けますが普通の溶解藥では決して溶けませぬ、この黑色素は獨り齒牙ばかりではなく、堅牢である爲めに、總ての動植纖維から木材に至るまで黑染するに用ふる物で、墨汁などもこの單寧酸鐵の溶解液であります。而して單寧酸を含有する物質は、沒食子、澁木、矢車などがありますが、通常木附子を用ひます。又鐵液は鹽化鐵、硫酸鐵、硝酸鐵等の水に溶ける鹽類もありますが、おはぐろには鐵漿と名づくる醋酸鐵の溶液を用ひます。おはぐろに使ふ木附子は鹽膚子に生ずる不正瘤狀物で、これを粉末として『ふしの粉』と云ひます、鐵漿は甘酒か酸敗した酒等を壺中に入れ、これに燒いた鐵屑を投じて竈の前に放置し、微溫を與へて尙腐らすのです。さうすると醱酵作用に由つて、甘酒或は酸敗酒が醋酸に變る。即ち酸化鐵を溶解して醋酸鐵とするのであります。この鐵漿は其製法が不完全ですから、時によると醋酸が過分になつて、液の酸性反應を呈す事もあります。

かねはげぬ粉

所でこのおはぐろを付けるに當つて、齒の質によつて難易がある爲めに、これを容易くしようとして、昔から種々の方法を用ひました。或は梅干の肉を齒面に塗つたり、酒石酸を代用したり、或は賣品のかねはげぬ粉を使つたりします、併しこれ等の物は、何れも酸性の物質であるために、齒面を溶解して、質を粗くします、かねはげぬ粉は淡紅色の粉末で其成分は燒明礬に紅を少し入れたのですが、この明礬

といふものは、礬土を含んで居てこれがよく色素と化合する性質を持つた物です。これが媒介者となつて、染著を容易ならしむのですが、明礬が單寧酸鐵と齒面との間に立つて其染著の媒介をする時に、酸性の反應あるが爲めに齒面を粗ならしめます、丁度硝子板に文字を書かうとしても、直きに消えて了ひますが、すり硝子ならば中々文字は落ちぬと同樣で、酸性液で土質を溶解し、琺瑯質の脫落後に、初めてよく染著するものなのであります、元より色素の沈著を容易ならしむる目的に出たものであるから、當然の結果ではありますが、これが爲めに齒牙の受ける傷害は甚だ大なる物で、衞生上默過し難き事であります。私が多數の患者に就て實驗した所によりますと、染著の度が多ければ多いだけ、齒質を消耗するものゝやうで、嘗て十五歲の時からおはぐろを附けたといふ、八十一歲の老媼に會つた事がありましたが、治療の時に細密に檢査をした所が、質面に細い小い孔が無數にありまして、恰も海綿質のやうになつて居りました。

東海の黑齒國

又一方風俗から云つても妙な物で、山海經と云ふ書物に、こんな事が書いてあります。

「黑齒國は東海中にあり、その土俗草を以て齒を染む。故に黑齒國と名づく」

この黑齒國とは或は日本を指して云つたものかも知れませぬ、尤も暹羅人は自然の習慣として檳榔子を嚙むので、自然に齒が黑くなる。婦人ならまだしも巡査も電車の車掌も、齒が黑いのですから誠に奇觀です、斯樣な國もありますから、前に擧げた黑齒國は、一概に日本の事だとも云はれませんが、而しもしこれが日本を云つた物とすれば、外國人の眼にはこのおはぐろが餘程妙な物に見えるでありませう。申上げるも恐れ多い事ではありますが、明治六年三月　陛下の御斷髮と同時に　皇后皇太后兩陛下も鐵漿をお剝がしになつたのであります。二夫に見えずの心は誠に結構な事ではありますが、精神さ

へ堅い決心を持つて居たなら敢て有害な消毒法を行ふにも及ぶまいと思ふのであります。

育兒

育兒上の軟派と硬派

根津　仙菅

對外政策に於て軟派とか硬派とか云ふ言葉がよく用ひられますなし、文學上に於ても軟派、硬派の稱が御坐います。私は亦育兒上にもこの軟派と硬派とのあることを認めるのであります。

大體から申しますと、先づ教育家は、大抵何方かと云ふと育兒上の硬派の人が多く、醫家の方は何方かと云ふと軟派に屬する人が多いやうである。又家庭に於ては父親は大抵硬派で、母親は先づ軟派の方が普通のやうに思はれます、少し詳しく申しますならば、學校の先生は、身體精神の薄弱な小兒も、漸次鍛錬して抵抗力を強くしなければならぬ、少々身體の加減が悪いからと云ふて妄に休校させたり、退學させたりするやうなことでは、迚も教育の目的を達することは出來ないと云ふ。又御醫者様の方から云はせると、身心の薄弱な兒童に普通の兒童と同様の課業を授けるのは間違つてゐる、これは疲勞して居る馬に鞭うつやうなもので、害があるばかりで效がない、況や少しでも健康を損なつてゐる時は直に休校させ或は退學させて十分療養を加へなければならぬ。健康は教育の土臺であると申すのであります。父親は『それしきの事で痛いとか痒いとか云ふやつは、迚も男には成れぬ、痛ければ打てやれ』と云はれますが、母親は『それは大變だ、早速寢て溫にして、藥を服んで、附けて、御醫者を迎にやらう』と撫でさすつてやると云ふ風であります。

さあ、斯うなりますと何方が善いのでありませう。軟派にも理由がある、硬派にも理窟がある。而かも

其の行き方が全く反對である。その方針で取扱はれるものは大事の大事の子供である。普通のお母様は惑はざるを得ぬことであらうと思はれる。

然し此間に立て、局外中立の位地から公平の眼で觀ますときには、軟派、硬派何方も、それ〴〵道理はありまするが、そこには又それ〴〵弱點、缺點があつて種々の弊害を來すのであります。眞理は唯一である、正當なる育兒法、最善の教育方針は一致すべき筈のものであります。それが一致せずして互に矛盾すると云ふものは、教育家には醫學の智識に缺けたる所があり、醫學者には教育の精神を理會して居らぬ點があり、父親はその兒の剛健有爲の人物と成らんことを希望して、身體の如何は餘り顧ぬと云ふ風があり、母親は一に身體の疾をこれ案じて、將來の爲人に就ては深く考慮せぬと云ふ傾がある。これが其の方針、其の取扱方の一致を缺き、矛盾を來す所以であります。然ればその取るべき道は中道に在る、硬に失せず、軟に陷らず、左右上下前後を顧みて、正當の所に止まらんことを要するのであります。至善の道は常に中庸を失はぬものであります。

今茲に二三の例を擧げて申しますならば、小兒には不消化物を與へては宜しくないと云ふて、既に通學してゐる兒童に、只外形の軟い粥とか、牛乳とか豆腐とか、卵のやうなものばかり與へる。さうすると此兒は第一に齒が弱く、消化器も薄弱になつて、餘所で僅かに變つた物を食べれば直ぐ消化器に故障を起す。又常に上等のフランネルのシャツ、ズボン下を穿かせ、家の内では少し汗ばむ程に上著を著せて置く、さうすると此兒の皮膚は軟弱になつて居るから、外出して運動をし一寸上著を脱いでも直ぐ風を引く。特に二歳三歳になつて齒も十分に發育し、大抵の食物を咀嚼し得るやうになつた小兒に、可哀想だからなどと云ふ愚痴から、養分に乏しくなつた乳を何時までもしやぶらして居る母親が少なくない此等は軟派の甚しきものと謂なければなりません。又今日は寒いから學校を休ませる、或は道路が惡い

から學校を休ませると云ふやうなことを致しますれば、これ小兒に惰癖をつけるもので、身體の健康にも不利益である。然ればと云ふて、感冒に罹つて居る、或は他に身體に異常のある小兒を强て登校せしむるは甚だ宜敷ないことである。これは小兒をして虚勢を張ることを敎へ、輕薄ならしむることを學ばしめ、身を毀るに至らしむる惡計であつて、父母、特に敎師の大に愼まねばならぬ事柄である。小兒の發育、その解剖、生理を無視したる敎育は惡敎育であつて、今日に於ても往々無智の敎員の陷る所である斯樣な無智に本ける、育兒上の硬派は排斥しなければならぬ。然しながら小兒の腦髓、小兒の心理を誤解して居る親達の敎育は愚敎育であつて、家庭に於て努めて學校の敎育の效果を減殺して居るやうなものである。

要するに、育兒上に於ける右の軟派も硬派も、過不及の誤を免れない、その中庸を得て正當最善の育兒法に適ふ爲には、敎育家に、もう少し醫學上の智識があり、醫家は、もう少し敎育の精神を顧慮し、一般の家庭に、もう少し育兒の常識が發達することが必要であらうと思はれる。

小兒室の燈火

小兒室の燈火には何が宜からうかと申しますと、先づ電氣、瓦斯、石油ランプの中で選ばなければなりますまいが、瓦斯、石油は室內に燃えた瓦斯が出ますから、この點から云へば電氣燈が宜しい、且つ取扱が便利で、熱を出さないと云ふ善い點があります。然し何れの燈火も多少の危險を伴ふて居ります。瓦斯燈、電氣燈では、第一に栓と開閉器に氣をつけなければなりません、それで此等は小兒の手の觸れないやうにして置くことが必要であります。瓦斯燈なれば必ずその栓を確かに閉づることに注意しなければならぬ、これは火災と生命の危險を免れむとするには是非必要の條件であります。次に石油ランプで

は小兒が之を顚倒す恐がありますから置ランプは宜しくない是非吊ランプでなければなりません。何れの燈火を選むに致しましても、出來るだけ直接の光源を覆ひ、ギラ〳〵せぬやうにして、必要の明るさを保つ程度にし、小兒の眼の眩まぬやうにしなければなりません。

我邦では昔から寢室には種油の所謂行燈を用ひますが、これは誠に睡眠には適當の明るさで、母や看護婦などが暗中に小兒の様姿を時々窺ふには都合よく直接危險と云ふことは御坐いませんから安心であります、然しこれでも十時間乃至十二時間も燈し續けますと、隨分室内の空氣を惡くしますから、小兒室には可及的燈火を全廢するのが一番宜しい、隣室に電燈をつけて置いて、寢室は全く暗くして宜しい。暗い所で眠らぬ癖のある小兒は、最初明るくして置いて、眠つた時に暗くすれば差支がない、小兒は少しく習らせば、明るい所でも暗い所でも容易に安眠するものであります。

呪はれたる兒（其二）

市場鴨村

今回は片親に離れたる薄倖兒がいやが上にも運命拙き魔の神に翻弄ばれ、今日は此所の門邊に明日は彼處の軒下に彳み、アレ又昨日の乞食兒よアレ又お貰かと近所の子供同志にはサン〳〵に侮蔑まれ、あちらに逐はれこちらに逐ひ廻され泣ては棒で毆打れ叫びては礫をなげられ、憐れや其果てが迷兒として養育院へ收容されたる可憐兒の身の上に就てお話を致して見ませう。

今年の三月中浣でした、淺草警察署の管内で年齢はやう〳〵八ッか九ッにならうといふ小供がぼろ〳〵の袷に包まれて乞食をして居たのを、巡廻の巡査が認め同區役所の手を經て院へ送られたのでありました、子供の名は川崎久政といふ今年九ッのドコとな愛くるしい言語もナカ〳〵に明晰した方でした、お父さんはと尋ぬると二ッの目は既に涙で曇らして

居りました、お母さんはと聞いた時は悲哀の感情に堪へずやありけんワッと泣き出しました、やう〳〵賺し〳〵訊しますと雙の手で涙を拭き〳〵かういふことを斷片的に語り出したのです。

お母さんからのお話では、お父さんは大そうお酒が嗜きで、私の三ツの時お母さんと喧嘩をしてそれ切り家へ歸つて來ないのです、お母さんは私を連れてお嫁に行かふとしたのですが繼父さんに苛虐られては不憫だから、お嫁に行かずに吉原でお女郎となつて私を月八圓の里扶持で淺草區北三筋町原瀬といふ家へ里に出してくれたのです、爰に説明を加へて置きませう、彼れの母といへるは川島トクと呼べるもので夫に捨てられたる果て一人の愛兒を鞠育するによしなく、身を遊廓に沈めて扶養の義務を全ふしやうと考へたものであります、女郎となることが女の道に缺けて居る、居らぬの議論は別として身相當の地位に居り社會よりも相當に敬意を拂はれつゝある紳士縉商の奥方として、其の子女を敎養するの途を怠り徒に虛榮に憧憬がれあたら夫を苦しめ延て家庭の紊亂を惹起すものに比較ぶれば、女郎となつて我が兒を養はんとする心根は遙に優れて居ると申しても差支ないでせう、お母さんは六年の年期でした

私が八ツの暮れまでは里扶持も滯りなく運んでくれたのでした、お母さんが年期明けに間近くなると足腰の立たない病氣となつて原瀬の家へ引き取られたのです、原瀬の家では里扶持が切れたのでお母さんは病氣中サン〴〵苛酷目に逢つて死ぬ時は雪を噛み〳〵アヽ殘念だと言ひ續けて三十一で死にましたお母さんが死ぬと最うお前の里扶持の出所がないから何處へでも行けといふて追ひ出されてしまひました、泣いて夜の明けるまで表に立ち通して居りましたが戸を開けてくれませんでした、朝になつてマダ烏鷺〳〵して居るのかといふて竹箒で叩かれましたそれからとう〳〵淺草の公園でお貰(乞食)になつたのです、お父さんやお母さんのことを思ひ出すと私は悲しくてなりません、お父さんがお酒を飲ますに

稼いでくれたならお母さんと三人仲睦くして暮せたのでせう、お母さんが私を養ふとてお女郎にまでなつたのもお父さんからです、お母さんが今にも息を引きとらうとした時私にかういふて聞かせましたお母さんにはお父さんもなければお母さんもない、兄さんも妹ともない、一人身です、せめてはお前を大きくして共に苦勞をしやうとそればかりを末の樂しみに吉原で賤しき渡世をして來たのでしたが、今は足腰立たずお前一人を此の世に殘して死ぬのでこればつかりが彼の世の障りです、お前が大きくなつたら私のお墓へ詣てをくれ、花はあげてくれずとも線香をあげてくれずともよいから、せめては身體だけを見せて下さいとお母さんは泣き〱凝と私の手を握つたまゝ死んだのであります云々と、片親に離れたる兒の運命は實に如此憐れなものであります、彼れの母トクなるものは兒の愛の爲めに一身を犠牲に供したればこそ三歳の幼兒を路傍に棄てざることを得たが、男に至つてはそれがかなわぬものと見えます、成程貧乏世帶の夫婦であつて其間に子を殘して妻に失踪さるゝか又は先き立たれては夫の苦痛は實に想像以外でせう、里へ出したくも餘裕の金はなし、さりとて乳呑兒のある所に嫁に來てはなし、小兒を抱いて居つては稼ぎにも出られず、晝夜の別なく火のつくやうに泣きたてられては男の身として如何になすべきやうもありません。

一層一トおもひにと思ひ詰めるのも強ち無理とも言ひ得ぬです、殺せば我が身も死なねばならず、さればとて愈々死ぬといふ決心は容易のものでありません、兒を殺して我も亦死ぬといふ考から棄てれば誰れか拾ふて養つてくれるものがあるに相違ない、さすれば我も生き兒も生き共に此の世に生存ゆることが可能であるといふ考に移るので、ツイには兒を棄つる氣にもなるのであらうと思はれます、極く最近の事實であります、山本健次(八歳)同明治(六歳)といふ兄弟が淺草區役所から迷兒として九月十九日に養育院へ送られて參つたのであります、兄の健次

といへるは尋常一年生であつたとかでナカ〳〵言語動作共に快活であります、兄弟共に父に棄てられたる一伍一什に就ての物語は斯樣でありました。

お父さんは古くから本所區北二葉町二十一番地に酒商をして居りました、お母さんが今年の二月十日の夜でありましたお父さんと喧嘩をして家を出た切り戻つて來ません、お父さんはお母さんが居なくなつてから自暴自棄になつてお酒ばつかり飲んで遊んで居りましたので、店は日増に淋しくなりますしお金も次第になくなつたものですから九月十八日とうとう店を大屋さんに明け渡して、其晩はお父さんと三人で本所小梅業平の木賃宿へ宿つたのであります、翌朝お父さんの話には小石川へ行くと懇意の人があるからそこを便らうとて他所でご飯を喫べて直に小石川へ出かけて參つたのです、さうするとお父さんは私と明治に對つてお前達二人彼の電信柱を目標に駈け競べをして見せんか、どちらでも勝た方へお褒賞としてお錢をあげると言はれました、私も弟ともお褒賞にお錢がほしさに電信柱を目懸けて一生懸命に駈け出しました、やがて私の方が一足先きに着きましたからお褒賞を貰へることゝ思ひ弟と手をつれて戻つて來ますと、お父さんの姿は既に見えないのであります、弟と泣き〳〵お父さん〳〵と大聲に呼んで見ましたがお父さんは最早私共を棄てゝ何處にか逃げてしまつたのです、仕方がありませんから弟の手を引いて電車の線路を辿り〳〵淺草まで來てお父さんを探したのであります云々と、彼れの父は山本惣吉といへるものゝよしなるが、惟ふに彼れ惣吉は妻の家出より自暴自棄に流れ倒産の結果家をたゝみしも、二人の子供を如何に處置すべきやうなく小石川まで連れ來り憐れや兄弟二人の子供を欺きて姿を晦ましたるものであらうと思はれます、其二人の子供を棄てた手段奇抜と申せば如何にも奇抜でありますが奇抜なるだけ無邪氣なる子供を欺きし罪は一段深しといはざるを得ません、されど幼き子供を欺き喜ばせて其の間に姿をかくす親の心は定め

し斷腸の思ひでしたらう、父を喪ふても母を喪ふても其兒の運命は實に悲慘のものであります、能く世間では孤兒は僻み根性があると言ひますが人生の徑路が尋常でない所に、孤兒といふことは已に一種の侮蔑語として使はれて居るやうな傾きがあり、孤兒自身も背景頗る淋しく感じられて、ともすると世人は我を繼子扱にしはせんか、我を輕侮しはせんかと斯樣な考の起る所より世人からは僻み根性の多いやうに見ゆるのです、憐れむといふことは所謂人道上結構のことに相違ありません、が憐んでやるのであると思ふとつい先方を輕侮するの念が起り易いものです、先方を輕侮する念が起つては折角の憐れみも無效に屬します、況してや親に棄てられたる兒は自らを影暗きものと認識して居る丈先方の動作に殊に注意を拂ふやうです、何と申しても氣の毒なものは下層社會であります、夫に死なれ夫に棄てらるれば其日より妻子は飢ねばならず、妻に死なれ妻に失踪さるれば其日より夫と子供とは矢張飢に泣かねばならぬのです、頻年米價は騰貴する一方で從て野菜、牛豚肉、魚肉は勿論味噌、醬油、薪炭に至るまで年一年に暴騰し三四年前まで茄子や胡瓜は貳錢單位でありしものが今や三錢單位になつて居ります、されど勞働者の收入は依然として之れに伴ひません、四苦八苦の中に一方には生理的情慾に驅られて內緣の夫婦なるものや、若しくは野合的夫婦なるものが全速力を以て非常に繁殖し、其間に子供が產るれば夫婦共に生活に苦しみ棄てるか又は僅かばかりの金錢を添えて他にくれるか二つに一つの途を執るのであります、十月三日の市內各新聞紙上に現はれたる板橋の貰兒殺し唐林エイの如き兇惡無殘の曲者も十五人の嬰兒を殺害するまで發覺せざりしは、如何に社會に兒を持て餘して其處置を冥々裡に解決せんとするもの丶多かゞうかがはれるのであります、親が眞に我が兒を愛するの情がありましたならくれてから一ケ月後に訪問れるか二ケ月後に尋ぬるか兎に角子供の消息を詳にするに相違ありません、私は新聞を

見た時唐林エイなるものを憎むと同時に彼れにくれたる親逹の如何に我が兒に薄情なりしかを憎まざるを得ませんでした、若しもこの十五人の親逹が棄てて法律に問はるゝよりは寧ろ僅かばかりの金錢で事濟むならばといふ淺墓な考から、碌々先方の身許も調べず棄てた同樣にくれたとしたならば私は殺害されたる子供になり代はりて其親逹を呪はずには居られません、約して申さば文明の進捗に連れて貧民の激增となり、貧民に伴ふ生活難なるものは意外の處に意外の犯罪を醞釀するものです、感化救濟の事業なども單に政府や男の手のみにては完全に遂行し得らるゝものではありません、是非とも上流社會貴婦人の後援を要するのであります、而して如此惡傾向をば防遏し犯罪を未然に拒ぎたいものであります

（以下次號）

家庭衞生

松茸の毒

薰林道人

松茸の時節が來た。太田の松茸、信州、京都の松茸彼の一種の山らしい感じを起こさせる好い香氣が、どこの八百屋にも充ち滿ちて居る。そこで松茸に中毒る人も例によつて例の如く出來る。

一體茸類は松茸に限らず椎茸でもしめじでも、しらべて見ると滋養分は非常に多いもので其滋養分は蛋白質が主であるから、丁度肉類の樣なものである、然し肉類の蛋白質は人間の胃や腸で具合よく消化されるが茸類の蛋白質は極く僅しか消化されない、大部分は其儘大便として排出されて終うのであるからまづ茸類は滋養にはならぬものと云つて宜しい、滋

養分があるにも拘はらずそれが消化されない形となつてるために滋養にならないので、云はゞ寶の持ち腐らしと云ふ格である。此點は野菜と酷似て居る。然し滋養品にはならないが、其香氣、其味は又格別で食慾を亢進させる働き言ひ換ふれば外の食物を美味く喰べさせるといふ力がありますから、茸類は矢張り喰べて差支無いのみならず必要でもある。

菌類を多く喰べると、ひどい吐き下しをやる人がある、松茸でも椎茸でも菌類はすべて不消化物であるから、多く喰べると急性腸胃加答兒を起こすに不思議はない。何も菌類に限つた事はない。然し強ち多く喰べた時でなくとも菌類に毒があつて、其爲めに中毒る事がある。これは毒菌を食菌と間違て喰べると云ふ場合が多い。又松茸などは古いのや、水に永く浸けて置いたのを喰べると中毒る事がある。

凡そ菌類の毒に中たると輕るいのや重いのでいろいろの症候を呈するが、輕るいのから重い方へ順序に云ふと四通りになる、卽ち胃腸障碍と云つて水落ちの所だの腹が痛んで、其の上輕い嘔吐下痢のあるもの、それから「コレラ」樣症候と云つて強い吐瀉をやり手足が冷えて終うもの、それから神經系統障碍と云つて頭痛がしたり、瞳孔が小くなつたり、吐瀉があつたり、生唾液が出たりする。その次の一番重いのは血液にも變化を起こし、心臟も麻痺して死んで終うのである。

然し菌中毒は大抵第一か第二に述べた類で吐瀉だけで治つて終うのが多い。中毒のが現はれて來るのは喰べてから凡そ一時間乃至四時間で、吐瀉の外、關節が痛み、腹痛も強く、口渴、動悸ひどくなるものである、香蕈屬に屬する菌類の中には隨分激毒を有して居るものがあつて、これは食後八乃至四十時間經つて始めて中毒症狀が現はれて來る、此時は毒は既に全身に回つてるから助かる見込は先づ無いのである。

兎に角、中毒と思つたら早く醫治を乞はねばならぬ、吐きを止めやうとし、又下痢を止めやうとして素人

流の吐き止め下痢止めの藥を飲めば必ず病氣は重くなるに定まつて居ます。俗説には茄子だの豆腐だのを喰べると中毒らないと申ます。

菌類を多く喰べ過ぎて中毒のは別として、毒菌を喰べて中毒のは不幸至極である。それ故先づ料理するに當つてはこれは毒菌ではないか如何かとよく調べて見ねばならぬ。毒菌と食菌との區別は六ヶ敷くて一寸見ては黒人でも見判の附かぬのがある。墺太利國政府では「市場の菜」といふ本を出して、其中に此區別法が書いてある。此本を遍く民間に配付してあるが、一々此本によつてやる譯には行かないそうである。

西洋では民間の風習で、手で絞ると乳の樣な汁の出て來る菌は毒であるとか、菌覆蓋の粘著くのや、鮮な色をして居るのは不可とか、球葱と一所に煮るれば其葱は黒くなるとき、又銀鍍金してある匙を、菌を煮て居る鍋の中へ入れれば褐色となるとか、又鹽をかけると黄色になる等は皆毒菌の證據であると信じて居ますが之れ等は當になる監識法ではありません。

私は政府でよく調べて、毒な菌と喰べられる菌とを美しい繪に印刷して弘く民間に配付し、一目瞭然に毒菌と否との區別のつく樣にして欲しいと思ふ。然し容易に専門家と雖識別の著かぬ場合が多いからこれは、難事には相違ない、殊に椎茸やひらたけとつきよだけ（又くまびら又はくまひらだけとも云ふ）との區別は非常に六ヶ敷い。岩川氏に從ふと日本の茸中毒の大多數はつきよだけであると云ふ事である。恐らく椎茸と間違へて喰べるからであらう。其容易な區別法は、椎茸では覆蓋の裏の眞中から莖が出て居るがつきよだけでは莖が必ず眞中を外づれて側の方から出て居る。又つきよだけの覆蓋の裏の皺は茸へ移り行くところが劃然と區別があるが、椎茸やひらたけでは徐々に莖の方へ移り行いて居るそうである。

松茸の莖を曲げて見て折れるのは松茸ではない。毒

菌である。茎の縦に裂けるのでなければ煮ては不可い。殻蓋を割つて見て其割れ口が暫時すると黒色や紫色になるのも喰べてはならぬ。古るいのや、永く水に漬けて置いたのも不可い。

菌類の毒は如何いふ性質のものであるか、未だよく判つて居ない、西洋でも有名、日本でも時々中毒を起こす蠅取茸又は天狗茸の毒は慥かに**ムスカリン**といふ毒物であると判つてから、何の茸の毒も**ムスカリン**だと思ふ人もあるがそれは誤である、十月二日に茨城縣で一名は死し二名は生命危篤となつたのも此天狗茸の中毒であつた。

ムスカリンなれば瞳孔は小さくなり生唾液が出てそれからひどい下痢を起こす筈である、然るに松茸の中毒では往々瞳孔が大きくなつて熱が非常に高くなり其上便通は無くなる事がある。これ等は**ピルツアトロピン**と云ふものゝ毒であつて**ムスカリン**ではあるまいといふ話である。

要するに判然した事は未だ判らないが、醫師を迎へる前には瞳孔の大きい小さい位には注意して之れを醫師に告ぐると共に無闇に藥を用ゐて苦痛を除かしとする事は素人では控へた方がよいのである（完）

感冒の療法

時節柄此處でもクション、彼處でもゲホンと風の神の樂隊が大分賑で御座いますから、風の神の撃退法を講じやうと思ひます。併しこの風の神にも種々のものがある、又その御供について來るものに却て手強いものが澤山ありますから、決して輕々しく侮る譯には參りません、生兵法大怪我の本と申しますから、素人療治は素人療治の範圍に止めて、少し嶮つた敵軍と認めたならば、直ちに本職の軍略家たる醫師に相談することを怠つてはなりません。

偖て嚔が出る、鼻汁が出る、涙がこぼれるとなればこれは所謂鼻感冒であるこの時は如何にするかと云ふに、先づ鼻を能くかむで、強く鼻呼吸をするので

あります、これを幾遍も繰返す。場合に依ては極細かにした硼酸末に僅かに薄荷を混ぜて鼻腔内に吸入して宜しいことがある。それから一%位の薄い鹽剝水で含嗽をする、硼酸水でも宜しい、鼻加答が起れば大抵咽頭も惡くなつて來るもので、引續き喉頭氣管と云ふやうに漸次深く進んで行く恐がありますから、勗めて入口の所で防禦することが肝要であります。

次に惡寒がする、熱が出る、頭痛がする、斯うなればいよ〳〵全身の感冒である。この時は決して無理に外出したり湯に入つたりしてはならぬ、往々これが爲に失敗で大事に立到るから、强い振りをしてはなりません、早速牀に就いて溫にし、藥としては湯を澤山呑むが宜しい、或は橙汁に砂糖を入れ熱湯を注いで飮むのは最も適當である。梅干湯も亦妙である。場合に依てはサリチール酸或はその製劑たるアスピリン、アンチピリンの如きものを服用して宜しいこともあるが、併しこれは素人の濫用すべきものではない、近頃は此等の藥劑に慣れて、何とも思はぬが、何れも危險な藥物である、これを濫用するが爲に屢〻中毒が起る、その爲に死だものも間々あるから決して輕々しく自ら用ゆべきものではありません。先づ橙湯位が最も適當である、橙湯の代りに人工リモナーデを拵へて用ふるも宜しい、これは左程危險なこともなからうと思ふから左に處方を掲げます。

稀鹽酸	一・五
單舍利別	二〇・〇
水	二〇〇・〇

或は稀鹽酸の代りに枸櫞酸一・〇又は酒石酸一・〇其他稀硝酸、稀硫酸或は燐酸を用ふることもありますが、餘り變つたものを用ふると間違が起り易いから普通の稀酸酸又は枸櫞リモナーデにして置く方が宜しう御坐いませう。これも美味からと云ふて一度に百瓦も二百瓦も飮むと胃を害しますから、少しづゝ幾度にも飮むやうに致します。若し汗を取る積りで

發汗劑を用ひます時には、起きて居つては駄目であります、先づ藥を飮むで熱い湯を澤山飮むか、或はソップなり饂飩なり熱いものを食べて毛布を纏ふて蒲團の中に安臥することが必要である、やがて三十分か一時間も經つ中に段々汗が出て來ますから少し熱苦しいのを我慢して十分汗を出し、もう此れ以上汗は出ないと思ふたならば、直接風にあたらぬやうに用心して、汗になつた寢卷をそろ〳〵脫ぎながら乾燥して溫いタオールで以て皮膚を能く拭き乾し、別な溫い寢卷に代へて再び靜に牀の中で眠るやうにしなければなりません。

これで以て普通の感冒は拔ける筈でありますが、更に咳嗽が出て、熱が退かず、舌が荒れて食慾が無く食物の味も變つて來るやうなれば、氣管、或は氣管枝までも侵されて來たのでありまして、斯樣になれば肺炎或は肺の結核などにも罹り易いのでありますから、永く素人療治で濟すべきものではありません必ず醫師の治療を受けて早く治して仕舞はなければなりません、

倘ほ注意すべきことは、單に感冒と申しましても、彼のインフルエンツア卽ち流行性感冒と云ふものはなか〳〵性質の惡いものでありまして、其の流行時に依て或は主として神經系を侵して身體の所々に痛を起す、卽ち頭痛烈しく、殊に腰の邊が痛む。或は主に呼吸器を侵すことがあり、又は消化器の方を侵して腹痛下痢を來すことがある。しかのみならず此のインフルエンツアと云ふものは、兎角餘病を惹起し易いものでありまして、本病の方は何うやら治癒しても、中耳炎が起るとか、腎臟炎が始まるとか、肺結核を惹起すとか云ふことがありますから忌な感冒であります。その上一種の黴菌が有るのでありますから、傳染致ます、一人これに罹ると家族中悉く傳染することは珍しくない、否全國、全世界に蔓延することさへあるのであります、小兒などには傳染しないやうに氣をつけ度いものであります。

それから危險なのは、惡寒がして熱があるから只の

感冒であらうと思つてゐると、漸次熱が高くなり、なか〳〵熱が退かないので、醫師の診察を受けるとこれは案外窒扶斯であつたと云ふ例は少なくない、それで鼻汁が出たり、咳嗽が出たりするのは、普通の感冒と見て宜しいが、左樣の事もなく惡寒がして熱が高く、殊に非常に氣分が惡い、而して熱が段々高くなつて來ると云ふやうな時は頗る危いのでありますから早速醫師の診斷を受けなければなりません今日では最初から注意が行屆けば、窒扶斯もそれ程危險な病氣ではありません、窒扶斯患者の死亡するのは大抵普通の感冒と誤つて、亂暴な取扱をするからであります、而して本人が危險に陷るばかりでなく、その診斷のつく頃には他の者にも盛に傳染して居りますのでこれが、何より怖しいのであります何れにしても時節柄感冒に罹らぬ御用心が肝要であります。

通經劑に就て

近時種々の名稱の下に所謂通經劑として坊間に鬻がるゝ賣藥が澤山ある、即ち月經不調の際に、俗に月ざらへの爲に用ふるものと見える、それも一二種に止まらず、段々殖える所を見ると相應に賣れるものと思はれる、併しこれは大に注意しなければならぬ事である。

世間には隨分斯樣な賣藥の爲に危險に陷り或は生命を殞したもの決して少くはあるまいと思はれるが、現に一昨年の十一月、所謂賣藥の通經劑に依て墮胎を來し、不幸にも死亡したものと思はるゝ一婦人の屍體が京都大學で解剖に附せられ、更に非常に詳密の檢査を施されたが、慥かに通經劑にて墮胎を來し、その中毒の爲に死亡したものと判定された。實に寒心すべき事柄である。

一體俗間に通經劑として販賣されて居る所のものは如何なるものかと云ふに、京都大學の小南學士の調

べた所に依て見ると、大抵蘆薈、硫酸鐵、炭酸鐵などと云ふ毒物が配伍してある、而して此等の藥劑は大量に用ふれば勿論、少量づゝでも之を永く續けて用ふれば中毒を起す、それで妊娠して居るものが斯樣な藥を用ふれば中毒の結果、その副作用として墮胎を來すこともある、甚しきは母子共に死亡して仕舞ふのである。然るに世には斯樣な作用を利用して、不正不義の妊婦が墮胎と云ふ大罪惡を行ふに便せんが爲に、故意に墮胎藥としての效能を吹聽して居るやうな奸商もあると云ふことである、實に恐るべき世中である。これは實に論外で、人間として論ずべき限りではないが、眞に月經不調の爲に困難する婦人も、決して賣藥などに賴るべきものではない、月經不調は左樣な賣藥などで治癒すべき單純の病氣ではない、種々の複雜した原因に依て起るものであるから、必ず醫師、就中專門の婦人科醫に就いて篤と診察を受けて眞面目に治療することが必要である、それを輕々しく如何はしき賣藥などに依て治療を企だつると云ふことは以ての外の心得違である、危險千萬のことである。

右に擧げた通經劑に用ひて居る所の毒物は、如何なる作用をなすかと云ふに、先づ胃腸加答兒を起す、それから恐るべき腎臟炎を起す、しかのみならず種々の內臟に病變を起す、殊に脂肪變性と云ふやうな甚しい變化を來し、所々の粘膜或は組織の間に溢血を起す、斯樣な劇しい病變が起る、その結果、妊娠して居れば自分の死ぬる前に、その手始めとして墮胎することもあるのである。故に月經異常の際に左樣な賣藥を用ふると云ふことは如何なる場合と雖、嚴禁しなければならぬ、これは國民衛生上實にゆゝしき大事である、政府に於ても斯樣なものを嚴重に取締らなければなるまいと思ふが、婦人衛生會員は勿論のこと、他の知合の婦人中にも、若し斯樣な過に陷らんとするものあるときは、極力その愆を戒めなければならぬ。

砂糖の應用

砂糖は之を何に應用するか、と尋ねたならば、一般のお料理、殊にお菓子と云はれるに違ひない、少し衛生の方に近寄れば、哺乳兒に與へる牛乳に入れるとか、矯味藥にするとか云はれるに違ひない、併しこれを食品貯藏に應用すると答へる人は少ないけれども實際種々の植物性のものを所謂砂糖漬にすることは普ねく應用されて居る、更に一歩進んで、消毒用に砂糖を應用すると云ふ人は至て稀である、所が近頃西洋の學者が砂糖を消毒用に使用して、大に有效であると唱へた。即ちマグヌスと云ふ人は百例以上の創傷療法に砂糖溶液を試みて、只に創所を淸潔にするのみならず、創の治癒を善くする、即ち肉芽及び表皮細胞の增殖を良くすることを確めたと報告して居る、我邦でも砂糖の貴かつた時分には擦傷などに效があるとして塗つたものである、或は蜂などに螫された時に黑砂糖が善いと云ふて用ひられた、又解毒になると稱して砂糖水を飲むことも俗間に行はれる、消毒の效ありとすれば多少その效果を認めたものであらう。尙ほ砂糖を燒いても室內の消毒になると云ふ人があり、醫學者が硏究用に人體或は他の動物の標本を貯へて置くのに從來主としてアルコールを用ひて居つたが、砂糖水を用うるとアルコールのやうに標本が固くなつて仕舞はぬので大變都合が宜しいと云ふ人もあり、段々衛生に關係のある方面に砂糖の應用範圍が廣まつて來るやうである、斯うなると砂糖は益々貴くなつて、値段も益々高くなるかも知れない。

眼鏡の選擇（承前）

莊司秋次郎

老眼鏡

眼は誠に重寶なものでありまして、一尺の所を見るにも明瞭に見え、一間前の所を見るにも明瞭に視え

ます、これはつまり眼の調節作用に由るのであります。併し眼に物を近づける、或は物を眼に近づけますと、遂に明瞭に視ることが出來ない點がある、強ひて見やうとすると眼が痛くなる、その所を眼の近點と申します。老人になりますと此の近點が遠ざかる、それは只今申上げた眼の調節力が減じて來るからであります。斯うなりますと近い所でする仕事、例へば讀書とか裁縫とか云ふことに不便を感ずるやうになります。顔を退け手を延ばして新聞紙を讀み針の絲を通すやうになります。普通の人は四十五歳位から斯うなつて參ります。これを矯正するのが卽ち老眼鏡で、凸面のレンズを用ふるのであります。老眼鏡を選定致しますのは、他の眼鏡のやうに精密な檢査をしませんでも、掛けて見て、自分の仕事をするに丁度宜しいものを選むで差支ありません。一體老視と云ふものは年齢に依て正しくその度の進み方が定まつて居りますから、その度を計つて年齢を言當てることが出來る位のものであります。但し以前から近視とか遠視とか云ふ眼の屈折異常のある人では、直ちにその年齢相當の度の眼鏡を掛ける譯には參りません、近視の人は老視の現はるゝこと遲く或はその度に依て一生老視の現はれぬ人もあります又遠視の人は普通よりも早く老視になります、例へば遠視十度の人は、三十歳頃より既に老視になるのであります、それで老眼鏡も醫師に選定してもらへば一番確である。尙ほ眼鏡を掛けると眼に癖がつくとか度が進むとか云ふ人がありますが、あれは全く間違ひで、決して左樣な譯はない、却て適當の眼鏡を用ひなければ度が進むと云ふこともありませう。老視眼の度は眼鏡を掛けても掛けないでも年齢に從つて一定迄進むものであります。併し決してその度を越して進むやうなことは御坐いません。

次に遠視にも矢張凸面眼鏡を用ひます。併し遠視と云ふものは、近視と同じく一種の眼の屈折異常でありまして、老視とは全く別なものであります。且つこれには年齢其他の事柄に依て種々の條件がありま

すから、老眼鏡のやうに單に自分の視え方に依て眼鏡を選みますと過ちを來します、これは必ず專門醫の指定した度の眼鏡を用ひなければいけません。

圓柱眼鏡

亂視のときには圓柱鏡と云ふものを用ひます。この眼鏡は近視の人が掛けてもいけず、遠視の人が用ひてもいけず、只亂視の人でなければ效能がない、圓柱鏡を掛けて善く視えるならば、その人の眼は亂視と云ふことが出來ます。この亂視にも種々ありまして、通常は眼の縱徑だけが近視であるとか或は橫徑だけが遠視になつて居るとか、稀には近視と遠視とが交錯になつて居るとか云ふ眼でありまして、それにも又種々の度があり、なか／＼複雜してゐることがありますから、これを矯正するには單に圓柱鏡でさへあれば宜しいと云ふ譯には參りません亂視の軸と云ふものがありますから、それに合はせて或は凸面、或は凹面のレンスを應用し、又圓柱鏡の軸もそれに應じて定めなければなりませんから、これは無論眼科醫の檢査に依て眼鏡を選定しなければなりません。



質　疑

問● 私孫男、三歳八ヶ月、體質中等痼疾なき者に候處、屢鼻血出で候、最初は滿一歳位のころ出血し、其後二三ヶ月目位に出血し、其都度二三日は續て一回位づゝ出血す、其量は多量ならず半紙半枚にて拭取り自然に止む位に候、毎に右鼻孔より出血す、其際痛みを感ずる狀態なし、二三の醫師に就き受診候も判明せず。

右は如何なる原因に由るものに候や、又其儘自然に放任し置きて宜しきか等質疑欄にて詳細御教示を希請す。

相州小田原　會員　濟○任○

答● 通常鼻出血、卽ち衄血の原因として數へらるゝものは左の如きものに御座候

異物、外傷、腺腫樣增殖、其他の新生物、潰爛、殊に鼻中隔の潰爛、肺炎、麻疹、殊に窒扶斯等の急性傳染病の經過中、血友病、スコルブート、痙咳、心臟病、肺氣腫、甲狀

腺腫、白血病、萎黄病、不良の住居、其他群居、長坐、凡て頭蓋内壓の增盛等

右の如く種々の原因有之候中、御問合せの文面に依て、其の然らざるものと推せらるゝ原因を除けば、殘る所のものは腺腫樣增殖、鼻中隔の潰爛、血友病、心臟病等の數症に御坐候、此中の腺腫樣增殖と申すは咽頭扁桃腺の大きくなる病に候へば、醫師の診察を受けられ候以上は、見逃さるることも可無之候へば、これ亦無きものと被存候、最も疑はるゝは鼻中隔の潰爛、卽ち鼻中隔に爛れたる所ありて、其部の小血管破れて時々出血することと屢〻有之候、而かもその傷は極めて微小なるが故に餘程詳密に檢査するも間々發見し難きこと有之候、次に血友病は出血し易く、止血し難き一種の遺傳素質に御坐候、心臟に異常ある者も衂血を來し易き傾き有之候、若し血友病、心臟病等の原因に由來するものとすれば、衂血は致方無之、若し又腺腫樣增殖其他の新生物、或は鼻中隔の潰爛等に原因するものならば其の治療敢て難からざることと被存候、尙ほ御來示の如き出血量なれば、差して其れが爲に憂慮すべき程の事も可無之被存候、兎に角確實なる鼻咽喉の專門家に、もう一度診察せしめられ候ては如何。



○東京府の看護婦試驗

東京府に於ける第二回の看護婦試驗は來る十一月十八日を以て擧行せらるべく、出願者は本月末日迄に願書を差出すべしとのことなり。

○大阪弘濟會の子供預所

同會にては第一次事業として授業、育兒、養老及び救療の四部を設けたるが、更に防貧事業の一として新に子供預り所を設置し、勞働者の兒女を晝間保育することゝし、同地難波にては德風及び有隣小學校附近に各一ヶ所、天王寺下寺町天神橋六、七丁目竝に九條三番道路邊に各一ヶ所、合計五個所を設置する筈にて、一ヶ所五十人を限り、保姆長一人保姆五人にて、一歲以上學齡迄の兒女を收容し、一日金參

錢（實際は實費十四五錢を要す）の預り料を徴し、晝飯の外午前と午後とに二回間食を與へ、保姆は終日オルガン、陸上ボート、鞦韆等にて兒女を嬉遊せしむる組織にて何れも來月上旬一齊に開所すべしと。

○嬰兒展覧會

東京府下巣鴨帝國小學校附屬幼稚園にては園長西山悊治氏の發企にて、去月十四日午後一時より赤ん坊展覧會を開催したり、その趣旨とする所は、兒童體育の奬勵にありて、醫師の體格検査に基きその發育優良なるものには賞を與ふることゝなしたるが、當日集れる兒童は滿一歳以下百六十名餘、滿一年以上約八十名合計約二百四十名にして、その内百三十餘名を選び、更に厳重なる審査の結果優良兒三十八名を得たる中、最優等と認むべき幼兒二十名に對し彰表式を行ひたり。

優良兒童三十八名の内、春、（二、三、四月）に生れたるもの最も多く（二十三名）、冬期、秋期之に次ぎ、夏（五、六、七、八月）に生れしもの一人もなく、父母の年齢を平均すれば、父三十一年一ヶ月、母二十五年六月にして、職業別は、商業十、官吏六、會社員六、醫師五、軍人三、教師二、記者一名なり、其住所地は郡部二十七名、深川六名、本所、神田各四名其他の區之に次ぐ、優良兒童は中流の家庭に多く、母親は概して體格強健なる者多く、哺育は一名の牛乳榮養を除くの外は總て母乳なり、その養育方法も多くは放任主義者なりき、一等は當選せる小石川大塚眼鏡商某四男は、本年三月一日生にて體重二貫七百七十四匁、頭圍一尺四寸五分、胸圍一尺四寸九分身長二尺四寸八分なりしと云ふ。

○驅鼠船の新造

先々月横濱にペスト患者を發生せし尚ほ續發の傾向あるより、同市にては捕鼠奬勵の爲め鼠一頭金五錢に値上げすると共に種々の防遏法を講じつゝあるが明年は御即位の大典も御擧行あらせらるゝことゝて内務省當局に於ても種々傳染病豫防の策劃中にて、

此際各開港地に於ける捕鼠に努めざるべからずとなし、瓦斯發生驅鼠船二隻を新造することゝなり、その經費二萬六千圓を第二豫備金中より支出する筈。

○殉職看護婦追悼會

東京看護婦聯合會は去二十八日午後二時より築地本願寺に於て、殉職及び病沒看護婦七十餘名の爲め懇なる追悼會を營めり。

○名古屋藝妓身體檢查成績

名古屋市に於て去月十五日より三日間藝妓の健康診斷を行ひたるが、その結果を聞くに五百九名中疾病其他の事故にて延期したるもの二十二名あり、檢查を受けたる四百八十七名の中肺結核二十三名、二期若しくは三期黴毒患者六名、トラホーム患者八名、心臟病患者十七名合計五十三名の患者を發見したるが、若し娼妓同樣の檢黴を行ふに於ては、更に多數の黴毒及び淋疾患者を發見するに相違なく、尙ほ雛妓の如きは睡眠不足と榮養不給の爲め、全身の衰弱し居らざるもの一名もなかりしと云ふ、その不健全なること驚くばかりなり、依て其筋にては社會問題として看過すべからざる事なりとし、彼等の待遇方につき特に抱主に注意を與へ、右罹患藝妓に對しては營業中止を命じたりと。

○東京市の狂犬

東京市内には漸次狂犬增加の傾向あり、從つて咬傷を受る者の數も增加せり、現に本年の如きは八月迄に二百九十二頭の狂犬を出したり、四十四年に於て狂犬に咬れたるもの五百六十八人、非狂犬に咬まれたるもの千五百八十九人、大正元年には狂犬に五百四十四人、非狂犬に二千三人咬傷を受け、本年は八月迄に狂犬に咬傷を受けたるもの三百六十五人、非狂犬に咬まれたる者千四百四十七人ありたりと云ふ因に逐年狂犬增加の數を示せば左の如し。

明治三十九年	八頭
同　四十年	九頭
同　四十一年	五十二頭
同　四十二年	八十三頭
同　四十三年	五十頭

同　四十四年　四百四十二頭
大正元年　四百七十三頭

○濟生會の巡廻治療班

濟生會にては今回、巡廻治療班を組織し、貧困者の居所を巡回して患者の診療に從事することゝし、當分三班を新設し、各班は醫員一名及び看護婦若干名を以て組織し、醫員は可成女醫を以て之に充て、看護婦は可成産婆免狀所有者を採用する方針にて、愈〻本月より開始すべしと云ふ

○震死者の統計

電氣に打れたる者を調査したる統計に據れば均しく電氣に打れたる者の中にて死亡するものゝ數は甚はだ少なきものゝ如し、曾て三百名の人が集合したる一の教會堂へ落雷したることありしが、內百名は輕傷を負ひ三十名は病臥するに至りしが、死亡したるは僅かに六名に過ぎざりしなり、又た「ノウレッチ」と云へる雜誌の記載する所に據ればスケルスウヰック、ホレスチーンに於て電氣に打れたるもの九十二名ありし內死亡したるものは僅かに十名に過ぎず、身體痲醉したるもの二十名、知覺を失ひたるもの五十五名、及び輕傷を帶びたるもの七名なりしなり、一千九百五年に於て二百五十名の集合し居たりし一の天幕へ落雷したることありしが、其內死亡したるものは僅に二名に過ぎず、他は皆な間もなく本復したり、又千九百一年より千九百十年に至る十ケ年間に英吉利及威斯に於て電氣に打たれて死亡したるものの百二十名あり、今ま之を平均すれば人口每三十萬に就き年一名の死亡者を出したる割合に當れり、而して此等の死亡者中男兒百八名にして女兒十六名なりしなり、然るに米國に於ては電氣に關する死亡率甚はだ大なりと謂つべきなり、即ち人口每百萬に就き年十名の死亡者を出したること是れなり英米の間に斯く死亡率の差異あるは恐くは米國の方は英國より雷鳴一層頻繁に且つ戸外に勞働するもの一層多きに因るものならん。

○學校衞生問題調査

文部省學校衛生係に於ては、數年前より學校衛生に關して種々調査する所ありしが、左の各項に就ては略ぼ調査完結せりと云ふ。

一、師範學校生徒の健康狀態につきて最近十年間の觀察
二、學校用机腰掛の調査
三、學校採光法に就ての調査
四、齒牙衛生に關する調査
五、體格等差標準制定に就ての調査
六、近視眼に關する調査（特に字體に關して）
七、學校生徒の呼吸器病增加の趨勢
八、中學校生徒卒業期の花柳病
九、身體敎練法（體操遊戲）と其免除
十、學校の結核問題

○感化救濟事業講習會

本月十六日より十一月一日に至る十七日間、內務省に於て第六回感化救濟事業講習會を開かるゝ由なるが、其科目の大要は左の如しと云ふ。

- 感化救濟事業當局者の心得
- 救濟事業の要義
- 泰西の救濟事業
- 都市と救濟事業
- 感化事業と其管理
- 兒童保護事業
- 兒童研究
- 實踐倫理
- 低能兒敎育
- 病的兒童の保護
- 兒童の手工敎育
- 衛生及救濟事業
- 救濟事業と宗敎
- 犯罪心理
- 歐米救濟事業の視察談
- 救濟事業と統計

廣告

○婦人衛生會十月例會

同會は去る四日午後一時半より例に依て神田區一ツ橋通女子職業學校の大講堂に於て開かれたり。同會に於ては從來專ら純粹の衛生講話のみなりしが、衛生の實行には更に一般の常識を要し、殊に精神の修養に俟つ所あるを感じ、今後は普通の衛生講話の外に、特に諸方面の名士を聘して講話を聽聞することゝなせり、今回は此の意味に於て左の講話ありたり

一、新しい女　中島德藏君
一、妊娠、分娩及び產褥の攝生法

醫學博士　樋口繁次君

當日は普通の會員の外、各女學校生徒、產婆看護婦等の聽衆者もありて頗る盛會なりき。役員の中には鳩山、高木、田村、岡田、其他の幹事及び評議員數名列席せられたり。

○本會入會者

○事務所申込
●兵庫縣城崎郡竹野村　通常會員　清水泰子
●釜山日本高等女學校　通常會員　三科琴子
○莊司秋次郎紹介
●府下田端三三二　通常會員　石崎さだ子
○中村春子紹介
●赤坂區青山北町六ノ四六　通常會員　丹羽喜代子
○田村きよ子紹介
●芝區葺手町一七　通常會員　高橋ちよ子
○金子しゑ子紹介
●神田區仲猿樂町六　通常會員　遠山幹子
○淡原兵吉氏紹介
●芝區三田四國町二ノ五　通常會員　山下まつ子
○篠森さく子紹介
●北海道札幌區北二東三、九　通常會員　市川りう子
○事務所申込
●下谷區池端茅町二ノ十四　通常會員　根岸か那子
●日本橋區濱町二ノ十四　通常會員　中村秀子
○岡田德子紹介
●小石川區關口臺町二十一　特別會員　吳光子

○新潟支會入會

○中村しげ子紹介
●　通常會員　伊東すみ子

○轉居

●小石川區關口臺町六十一へ　石栗とせ子
●神戶市楠町三ノ百七十二へ　深野英子
●本鄉區湯島切通坂町十七へ　杉山若代子
●橫須賀市港町六十四へ　杉本島美子
●赤坂區臺町一へ　內山訓子
●北海道空知郡歌志內町空知炭山へ　戶川親子
●四谷區大番町三十二へ　遠藤銈子
●小石川區第六天町四十八へ　久保田雪子
●神戶市葺合町字熊內二千八十九へ　勝田久理子

前髮心の覇王 美人印ヘーヤロール

弊店製造の特許ヘーヤロールは原料を遠く濠洲に仰ぎ新歸朝者美容術界の明星たる岡崎エン子女史が母國への土產として持ち來りしものに大改良を加へ衛生と經濟とを兼備したる逸品なる事貴婦人界既に定評あり

ヘーヤロール前髮心壹個の目方

壹尺中	貳匁四分
壹尺貳寸大	三匁四分
壹尺五寸極大	五匁五分



私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身に健康あらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〱衛生の法は一にして足らずといへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相率て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに益すあらんとす玆に本會の旨趣の梗概を敘べて廣く江湖の諸彦姉に告げ其賛成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

●第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を研究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會本務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續巻末に詳なり）入會後轉居等あるときは直に本務所に報知せらるべし

●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす　終身會員は一時に金廿五圓以上　特別會員は一ヶ月金三拾錢以上　通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

●第八條　退會せんとする者は其旨本會本務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第九條　本會に推數員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に請出るものとす

●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名　書記者若干名

●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命す但書記は部會に由り會員外の婦人若くは男子に託するとあるべし

●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る　幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

●第十三條　臨時指名要員の件

●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生するときは次點者を以て補缺す

●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又臨時に同會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし

●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の諸講義演說談話を囑託し會員をして傍聽臨席せしむるものとす

●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）

●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す

●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと

●第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上賛成者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし會後員數增減あるときは其姓名を支會より本會本務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

●第廿七條　支會に於て支會限りの會員を置くことを得

●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を購讀する者に就ても亦同じ

●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし

●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし

●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證を送付として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）

●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし振替にて口座番號東京一〇六〇〇番本會本務所宛に振出しあるべし

●第卅四條　會員中若し本會の除名となるべき所爲ある者又は屡く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廢會することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田徳子
同 山木多穗子
同 松平芳子
評議員 石川眞子
同 濱田捨子
同 服部繁子
同 西外子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波眞子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部殿子
同 山口眞子
同 古市幸子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮下咲子
同 羽田三緒子
同 高木鍒子
同 三浦敎子
同 岩下ゆか子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 加藤鈴子
同 男爵夫人 吉武輝枝子
同 高橋孝子
同 鶴原誠子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 菊池峯子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一册 定價金貳拾錢 郵税壹錢
三册（三ヶ月分） 前金郵税共 金四拾五錢
十二册（一ヶ年分） 前金郵税共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正二年十月十七日印刷
大正二年十月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本鄉區根津西須賀町九番地 菲司秋次郎
印刷者 東京市本鄉區駒込林町百七十二番地 今井甚太郎
印刷所 東京市本鄉區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本鄉區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 東明堂
同市本鄉區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本鄉區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

醫學博士弘田長先生題
醫學博士唐澤光德先生著

育兒の話

◉前編
◉後編續出

◉袖珍型本綴美麗
◉全文總振かな附

▼正價金參拾五錢
▼郵稅金　貳錢

哺乳兒時期に死亡するもの最も多きは統計表の示す所、其原因多くは育兒の方法其宜しきを得ざるに由るものにして小にして一家庭の悲哀を起し、大にしては我日本帝國の消長に關す育兒の法豈等閑に附すべけんや、弊舗茲に見る所あり今回唐澤博士に乞ひ、本書を公にするの光榮を得たり、本書は言文一致體にして頗る平易なる文字より成り、說く所亦實行的なれば婦女子と雖も了解し易く、醫家も亦本書に由り成書に記載なき治療上の注意を見出し、益を得ること尠からざるべしと信ず

楠田謙藏先生述
鈴木准二先生編
（菊判假綴美装）

婦人の衞生

◉全一冊

◉木版圖畫十二插入
◉全文總ふりかな附

▼正價金四拾錢
▼郵稅金　四錢

此書は婦人の月經時・婚嫁時・妊娠時・分娩時・産褥時竝に其固有の疾病時に當りて注意すべき事柄を漏すことなく記述し之に附するに小兒の保育上の注意疾病時の注意を以てしたるものにして婦人は此記述に準じて自愛するときは庶幾くは其健康を保持し且愛兒を適當に保育することを得ん此書に類したる名を負せて世に出すところの書冊に比すれば其所述に於て其優美にして卑猥ならざる點に於て少しく撰を異にするところあるを信ず

發行所　振替東京四一八番　東京市本郷區龍岡町　〔電話下谷一六七二〕　吐鳳堂書店